

TSSコマンド入力支援システム(TSS/BTF)第2版について : FLISTおよびMLISTコマンド

末永, 正
九州大学大型計算機センター研究開発部

平野, 広幸
九州大学大型計算機センター業務掛

<https://doi.org/10.15017/1468136>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 19 (1), pp.4-104, 1986-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

TSSコマンド入力支援システム (TSS/BTF) 第2版について
— FLISTおよびMLISTコマンド —

末永 正*, 平野 広幸**

ま え が き

TSSコマンド入力支援システム (TSS/BTF: Brief Touch Facility) は, FACOM OS IV/F4のもとでTSSコマンドを実行する場合の入力操作を支援するシステムで, FLISTコマンドおよびMLISTコマンドの2つのコマンドプロセッサからなる. FLISTは, セッション開設者の所有するデータセットの一覧を表示し, MLISTは, 区分データセットのメンバー一覧を表示する機能を持つ. 両者ともメニュー一覧の対象項目に対してコマンド入力を行える. また, 実行したコマンドは, その履歴を保存しており, 再度編集実行できる. さらに, FLISTおよびMLISTによって生成したメニューは有機的に結合し, 存在するメニューを自由に切り替えて表示できる.

本手引書は, 読者がFACOM OS IV/F4のTSSを多少経験していることを前提にしているが, その予備知識としては一日程度のTSS利用経験があればよい. 以下では, 本システムの解説を3部に分けて述べる. 第1部はフルスクリーン型端末における使用法, 第2部はTTY端末における使用法を解説する. 第3部は, 指令言語 (コマンドおよびサブコマンド) の詳細を記述する.

なお, 第1版***からの変更箇所に対しては, 目次に*印を付しているもので, 従来からの利用者は*印以外の項目を読み飛ばしてもさしつかえない.

昭和60年11月25日受理

* 九州大学大型計算機センター 研究開発部

**九州大学大型計算機センター 業務掛

***第1版は, 九州大学大型計算機センター広報, Vol.15, No.5, 1982「TSSコマンド入力支援システムの開発について」を指す.

目 次

第1部 フルスクリーン型端末における使用法	9
1 開始と終了	10
1.1 FLISTメニュー	10
1.1.1 名前による選択 (FL a*, FL *.fort, etc)	11
1.1.2 編成による選択 (FL * PS, FL * PO)	11
* 1.1.3 ボリュームによる選択 (FL * V(pub*), etc)	12
1.2 MLISTメニュー	12
1.3 メニュー表示の終了 (PF3←)	12
2 画面の移動	13
2.1 相対位置による移動 (/+10, /-15, etc)	13
2.2 絶対位置による移動 (.TOP, .B, /100, etc)	13
2.3 項目サーチによる移動 (/abc, /*.data, etc)	13
2.4 画面の一時退避と回復 (.PUsh, .POP)	13
3 コマンド入力	14
3.1 カーソル移動	14
3.2 BTF用サブコマンドとTSSコマンドとの区別	14
* 3.3 単独入力フィールドにおける入力	14
* 3.4 項目指定入力フィールドにおける入力	15
3.5 入力コマンドにおける制約	17
3.6 コマンド実行終了後の表示	17
3.7 一括入力と繰り返し入力 (=, ?)	17
* 3.8 実行コマンドの一時中断と再開または取消 --- (QUIT, .WAKEup, .CANcel)-----	19
* 3.9 READY状態でコマンド実行 ----- (.EXIT, RETURN)-----	20
4 メニュー情報の訂正	21
4.1 表示情報の再設定 ----- (.REnew)-----	21
4.2 項目追加 ----- (.Append, .REnew)-----	21
5 メニュー表示形式の変更	22
* 5.1 項目指定入力フィールドの拡大 ----- (PF9←)-----	22
5.2 データセット名の完全表示 ----- (PF9←)-----	23
5.3 ソーティング ----- (.Sx, PF4←)-----	23
5.4 別名メンバとの対応表示 ----- (PF9←)-----	24
* 5.5 メニュー項目名による選択表示 ----- (.SEL *.FORT, .SEL *, etc)-----	25
* 5.6 メニュー項目の表示抑止 ----- (.X, .XX~.XX, .RECover)-----	27
6 複数メニュー画面の生成	28
6.1 画面生成の状態表示 ----- (.DISP, PF6←)-----	28
6.2 画面の切り替え ----- (PF2←)-----	28

6.3	画面間で独立な機能	-----	29
6.4	画面間で共有される機能	-----	29
6.5	新たなメニュー画面生成時の制約	-----	29
6.6	メニュー画面の削除	----- (PF3キー)-----	29
7	内容識別修飾子の取り扱い変更	-----	30
7.1	データセットメニューでの変更	----- (.TYPE, .NOTYPE)-----	30
7.2	メンバメニューでの変更	----- (.TYPE, .NOTYPE)-----	31
8	実行コマンドの履歴と再入力	-----	32
8.1	履歴画面の呼び出し	----- ("CMD"+PF2キー)-----	32
8.2	コマンドの再入力	-----	32
8.3	履歴画面の終了	----- (PF3キー)-----	32
9	オペレーション代行	-----	33
9.1	カーソル移動操作	----- (.CURSor)-----	33
9.2	キー入力操作	----- (.SOS)-----	33
10	個別設定機能 (パーソナライズ) とその使用法	-----	34
10.1	同義文字列の定義	-----	34
10.1.1	定義画面の呼び出し	----- ("SYN"+PF2キー)-----	34
10.1.2	編集方法	-----	35
10.1.3	登録と復元	----- (.INTERprt, .RECover)-----	36
*	10.1.4 利用法	-----	36
	10.1.5 定義画面の終了	----- (PF3キー)-----	37
*	10.2 PFキーの定義	-----	37
*	10.3 コマンドの実行制御	----- (.SET)-----	39
	10.4 開始コマンドのオペランド省略	----- (.Save, .Show)-----	39
*第2部 TTY端末における使用法			40
1	開始と終了	-----	41
1.1	FLISTメニュー	-----	41
1.1.1	名前による選択	----- (FL a*, FL *.fort, etc)-----	41
1.1.2	編成による選択	----- (FL * PS, FL * PO)-----	42
1.1.3	ボリュームによる選択	----- (FL * V(pub*), etc)-----	42
1.2	MLISTメニュー	-----	42
1.3	メニュー表示の終了	----- (.END)-----	43
2	メニュー項目の移動	-----	43
2.1	相対位置による移動	----- (/+10, /-15, etc)-----	43
2.2	絶対位置による移動	----- (.TOP, .B, /100, etc)-----	43
2.3	項目サーチによる移動	----- (/abc, /*.data, etc)-----	43
3	コマンド入力	-----	44
3.1	BTF用サブコマンドとTSSコマンドとの区別	-----	44

3.2	TSS コマンド入力	44
3.2.1	単独入力形式による TSS コマンド入力	44
3.2.2	項目指定入力形式による TSS コマンド入力	44
3.3	BTF 用サブコマンド入力	47
3.4	入力コマンドにおける制約	47
3.5	コマンド実行終了後の表示	47
3.6	コマンドの一時中断と再開	47 (QUIT, .WAKEup)
4	メニュー情報の訂正	48
4.1	表示情報の再設定	48 (.REnew)
4.2	項目追加	48 (.Append, .REnew)
5	メニュー表示形式	49
5.1	表示情報の変更	49 (.Name, .Whole)
5.2	ソーティング	50 (.Sx)
5.3	メニュー項目名による選択表示	51 (.SEL *, .FORT, .SEL *, etc)
5.4	メニュー項目の表示抑止	52 (.X n, .REcover)
6	複数メニューの生成	53 (.SWAP)
7	内容識別修飾子の取り扱い変更	54
7.1	データセットメニューでの変更	54 (.TYpe, .NOType)
7.2	メンバメニューでの変更	54 (.TYpe, .NOType)
第3部	指令言語	55
1	メニュー開始用コマンド	56
* 1.1	FList	56 (データセットメニュー表示)
1.2	MList	58 (メンバメニュー表示)
* 1.3	QUIT	59 (実行コマンドの中断とメニュー表示)
* 1.4	RETURN	60 (READYモードからの復帰)
2	システム制御用サブコマンド	61
2.1	/ (スラッシュ)	61 (画面の移動と項目の検索)
* 2.2	ACCess	62 (参照または更新日の表示)
2.3	ALias	63 (別名メンバの表示)
* 2.4	Append	64 (項目の追加)
2.5	Bottom	65 (最終項目の表示)
2.6	CURsor	66 (カーソル移動シミュレーション)
* 2.7	DISPlay	67 (メニュー種類の表示)
* 2.8	eXclude	68 (メニュー項目の表示抑止)
* 2.9	EXIT	69 (READYモードへの移行)
* 2.10	FILE	70 (メニュー画面の保存)
2.11	Find	71 (文字列の検索)
2.12	NOALias	72 (別名メンバの表示削除)

2.13 POP	----- (待避画面の取り出し) -----	73
2.14 PUsH	----- (画面の待避) -----	74
* 2.15 RECOVer	----- (抑止項目の再表示) -----	75
2.16 RENew	----- (表示情報の再設定) -----	76
2.17 Save	----- (開始コマンドのオペランド記憶) -----	77
* 2.18 SELEct	----- (メニュー項目の選択表示) -----	78
2.19 SHOW	----- (記憶オペランドの表示) -----	79
2.20 SOS	----- (キー入力のシュミレーション) -----	80
2.21 TOP	----- (先頭項目の表示) -----	81
3 ソート用サブコマンド	-----	82
3.1 サブコマンドの形式	-----	82
3.2 サブコマンドの種類	-----	82
4 コマンド実行制御用サブコマンド	-----	83
* 4.1 CANcel	----- (実行中断コマンドのキャンセル) -----	83
4.2 NOType	----- (内容識別修飾子の制御) -----	84
* 4.3 SET	----- (省略値およびコマンド実行モードの設定) -----	85
4.4 TYpe	----- (内容識別修飾子の制御) -----	86
* 4.5 WAKEup	----- (実行保留コマンドの再開) -----	87
5 コマンド繰返し制御用サブコマンド	-----	88
5.1 =(イコール)	----- (コマンドの繰返し実行) -----	88
5.2 ? (疑問符)	----- (繰返しコマンドの表示) -----	89
6 同義文字列制御用サブコマンド	-----	90
6.1 Change	----- (同義文字列の変更) -----	90
6.2 Find	----- (同義文字列の検索) -----	91
6.3 INTerprt	----- (同義文字列の登録) -----	92
6.4 RECOVer	----- (変更の復元) -----	93
* 7 TTY端末用サブコマンド	-----	94
7.1 Down	----- (後続のメニュー表示) -----	94
7.2 END	----- (メニュー表示の終了) -----	95
7.3 List	----- (メニューの再表示) -----	96
7.4 Name	----- (メニュー項目のみの表示) -----	97
7.5 SWAP	----- (メニューの切り替え) -----	98
7.6 Up	----- (前のメニュー表示) -----	99
7.7 Whole	----- (メニュー項目と属性の表示) -----	100
8 PFキーの標準的機能	-----	101
付録 TSS/BTFコマンド一覧	-----	103

第1部 フルスクリーン型端末における使用法

第1部では、10個以上のプログラムファンクションキー（PFキー）を備えた24行80桁のキャラクタディスプレイ装置（IBM3270型端末と同種のもの）で、FSO（Full Screen Option）機能の使用できる端末について説明する。具体的な機種名については、九大大型計算機センター広報の「TSS端末一覧」の欄*に掲載されている。

これらの端末では、下図のようなメニュー画面が表示され、入力フィールドにフルスクリーン形式でコマンド入力が行える。

```

====> [コマンド入力フィールド]
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/11/05 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME  TYPE  ORG  INPUT FIELD  RF  LRECL  BLKSZ  EX  SPACE  %  CREATE  VOLUME
EXAMPA  AAA  CNTL  PS          F    80   3120   1    13  **  800408  PUB011
EXAMPBB  DATA  PS          F    80   3120   4    78  **  800110  PUB015
EXAMPCC  CNTL  PS          F    80   3120   1    13  **  790327  PUB002
EXAMPDD  DATA  PS          F    80   1200   2    39  **  800317  PUB007
EXAMPEE  FORT  PS          F    80    400   7    91  86  800213  PUB014
EXAMPFF  CNTL  PS          F    80   3120   1    13  **  800402  PUB005
EXAMPFF  FORT  PS          V   255   3120   1    39  34  800401  PUB006
EXAMPHH  PLI   PS      コマンド  F    80    400   1    13  **  790323  PUB004
EXAMPII  PLI   PS          F    80    400   1    13  **  790316  PUB008
EXAMPJJ  LOAD  PO      入力フィールド U    -  13030   1   117  **  790316  PUB007
EXAMPKK  PLI   PS          F    80    400   1   689  84  790314  PUB008
EXAMPLL  FORT  PS          F    80    400   1    13  **  791220  PUB013
EXAMPMM  DATA  PO          F    80   3120   1   117  **  781227  PUB004
EXAMPNN  BASIC PS          V   137   3120   1    13  **  800502  PUB007
EXAMPOO  CNTL  PS          F    80   3120   1    13  **  800825  PUB005
EXAMPOO  FORT  PS          F    80    400   1    26  **  800822  PUB008
EXAMPOO  LOAD  PO          U    -  13030   1   689  21  800825  PUB017
EXAMPOO  PLI   PS          F    80    400   1    52  75  800823  PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

なお、24個のPFキーを備えた端末の場合、PF13キーからPF24キーまでは、PF1キーからPF12キーまでと同一に扱われる。

* 端末一覧の欄は、Vol.16以降ではNo.1とNo.4に掲載されている（ただし、Vol.19ではNo.2）。

1. 開始と終了

TSSコマンド入力支援システム（以後、BTFと呼ぶ）は、TSSのLOGON処理完了後、コマンド入力モード（READY状態）において、下記のいずれかのコマンド入力によって開始される。

- (i) データセットメニュー表示 : FLISTコマンド
- (ii) 区分データセットのメンバメニュー表示 : MLISTコマンド

1.1 FLISTメニュー

FLISTコマンドを用いると、カタログされているデータセット（ただし、VSAMデータセットを除く）がメニュー形式で表示される。さらに、FLISTコマンドのオペランドにデータセット名の特徴やデータセット編成（順データセット、区分データセットの別）を指定することによって、それらを選択して表示することができる。表示画面の一例を図1に示す。

例) FLIST 図

```

===>
----- FLIST MENU ----- V20/L01 -- PREFIX(P0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME  TYPE  ORG  INPUT FIELD  RF  LRECL  BLKSZ  EX  SPACE  %  CREATE  VOLUME
EXAHAAA  CNTL  PS                F    80   3120   1    13  ** 800408  PUB011
EXAHBBB  DATA  PS                F    80   3120   4    78  ** 800110  PUB015
EXAHCCC  CNTL  PS                F    80   3120   1    13  ** 790327  PUB002
EXAHDDD  DATA  PS                F    80   1200   2    39  ** 800317  PUB007
EXAHPEEE  FORT  PS                F    80   400   7    91  88 800213  PUB014
EXAHPEFF  CNTL  PS                F    80   3120   1    13  ** 800402  PUB005
EXAHPEFF  FORT  PS                F    80   3120   1    39  34 800401  PUB006
EXAHPHHH  PLI    PS                F    80   400   1    13  ** 790323  PUB004
EXAHPIII  PLI    PS                F    80   400   1    13  ** 790316  PUB008
EXAHPIJJ  LOAD  PO                U    -   13030   1    117  ** 790316  PUB007
EXAHPKKK  PLI    PS                F    80   400   1    689  84 790314  PUB008
EXAHPLLL  FORT  PS                F    80   400   1    13  ** 791220  PUB013
EXAHPHHH  DATA  PO                F    80   3120   1    117  ** 781227  PUB004
EXAHPHNN  BASIC  PS                F    137  3120   1    13  ** 800502  PUB007
EXAHPOOO  CNTL  PS                F    80   3120   1    13  ** 800825  PUB005
EXAHPOOO  FORT  PS                F    80   400   1    26  ** 800822  PUB008
EXAHPOOO  LOAD  PO                U    -   13030   1    689  21 800825  PUB017
EXAHPOOO  PLI    PS                F    80   400   1    52  75 800823  PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図1. FLISTコマンドによるデータセットメニュー画面の表示例

図中の3行目における略称記号の意味は次のとおりである。

- NAME : ユーザ指定名**の先頭8文字
- TYPE : 内容識別修飾子*
- ORG : DSORG (データセット編成)
- RF : RECFM (レコード形式)
- LRECL : LRECL (レコード長)
- BLKSZ : BLKSIZE (ブロック長)
- EX : EXTENT (エクステント数)

* 3以上の修飾子からなるデータセット名において、最後の修飾子が内容識別修飾子とみなされる
 **データセット名から第1修飾子と内容識別修飾子を除いたものがユーザ指定名とみなされる。

SPACE : SPACE (確保量, キロバイト単位)
 % : 実際使用量 (百分率, 100%は"***"で表示される)
 CREATE : 作成日
 VOLUME : ボリューム通し番号

1.1.1 名前による選択

データセット名の第1修飾子 (通常, ユーザ識別修飾子) を除く名前の特徴を, FLISTコマンドの第1オペランドに下記のように指示することによって, 表示メニューの項目を選択できる.

AB* : "AB"で始まるもの
 *AB : "AB"で終わるもの
 .FORT : 内容識別修飾子が"FORT"で始まるもの
 AB. : ユーザ指定名が"AB"で終わるもの
 A*B.* : ユーザ指定名が"A"で始まり"B"で終わるもの
 AB*.FORT : "AB"で始まり内容識別修飾子が"FORT"であるもの
 ABC. * : ユーザ指定名に"ABC"を含むもの
 *. * : 内容識別修飾子をもつもの
 -*. * : 内容識別修飾子をもたないもの
 * : すべて

ここで, "*" (アスタリスク) は任意の文字列を示す. FLISTコマンドのオペランド指定が全くない場合には"*"になる.

例) FLIST *.FORT 内容識別修飾子が"FORT"のものを表示する.
 FLIST A* データセット名が"A"で始まるものを表示する.
 FLIST 全てのデータセットを表示する.

1.1.2 編成による選択

データセット編成のタイプを選択するパラメータとして, 次のものを指定できる. 省略時は"ALL"である.

PS : 順データセット
 PO : 区分データセット
 ALL : すべてのデータセット

当パラメータを指定するときは, 名前による選択パラメータを省略できない.

例) FLIST * PO
 すべての区分データセットを表示する

1.1.3 ボリュームによる選択

データセットの存在するボリューム通し番号の特徴を、名前による選択パラメータの後に指定する。省略時は全ボリュームが対象となる。

例) FLIST * VOL(PUB*) 

共用ボリュームにあるものを表示する。

FLIST * VOL(¬MIGRAT) 

マイグレーションされていないものを表示する。

FLIST * PO VOL(MIGRAT) 

マイグレーションされている区分データセットを表示する。

1.2 MLISTメニュー

MLISTコマンドを用いると、1つの区分データセット中のメンバ名一覧がメニュー形式で表示される。メンバ名が(あるメンバの)別名となっている場合には、メンバ名の左横に"*"(アスタリスク)記号が付されている。表示画面の一例を図2に示す。

例) MLIST CMDPROC.CLIST 

```

===>
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
  ALLOC ==>
*ALLOCATE ==>
  APL ==>
  APLA ==>
  ATNAPLA ==>
  ATNEASP ==>
  ATNFCMP ==>
  ATNSGV ==>
  ATNSPL ==>
  AXEL ==>
  DEFDB ==>
*DSC ==>
  DSCAN ==>
*DSL ==>
  DSLIST ==>
*DST ==>
  DSTATUS ==>
  EASYSFSS ==>
  ENDO ==>
  FCMP ==>
TYP=REC(F),LR(==80),BLK(=8160),EXT(=1),TRK(==30,==16),DIR(=50,==4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERN=>PF3

```

図2. MLISTコマンドによるメンバメニュー画面の表示例

〔下から2行目は区分データセットの属性(レコード形式,レコード長,トラック長,エクステント数,トラック数(確保量,使用量),ディレクトリ・ブロック数(確保量,使用量),ボリューム通し番号)を示す〕

1.3 メニュー表示の終了

FLISTおよびMLISTメニュー表示を終了するには、PF3キーを用いる。そのままTSSセッションも終了するのであれば、画面最上段の入力フィールドにLOGOFFコマンドまたはLOGONコマンドを入力してもよい。

2. 画面の移動

2.1 相対位置による移動

画面上に表示されている先頭の項目からの相対番号を " / " (スラッシュ) 記号の後に符号と共に指定することによって、画面の前後の移動が行われる。

例) /+10 : 10項目先へ移動

/-10 : 10項目後へ移動

なお、標準的なPFキーによる画面移動として、下記の定義が提供されている。

PF7 : /-20

PF8 : /+20

2.2 絶対位置による移動

画面上に表示される先頭のメニュー項目の位置を直接的に指定することによって、画面を移動することができる。

例) .TOP  : 最初の項目を表示する

.BOTTOM  : 最後の項目を表示する

/100  : 最初から100番目の項目を表示する

また、特別な指定法として、メニュー項目の右横に " / " のみを入力すれば、その項目が先頭へ移動する。

2.3 項目サーチによる移動

メニュー項目の文字列またはその一部を指定し、該当する項目を検索することによって、画面の移動を行うことができる。

例) /AB* : "AB" で始まる項目のサーチ。 " /AB " と指定してもよい。

/*AB : "AB" で終わる項目サーチ。

/A*B : "A" で始まり "B" で終わる項目のサーチ。

/A*B*C : "A" で始まり "B" を含み "C" で終わる項目のサーチ。

なお、サーチ処理は、画面上の2番目の項目から下に向かって行われ、最終のメニュー項目に達すると先頭に戻って一巡するまで行われる。該当する項目が見つからない場合は、最終のメニュー項目が表示される。また、同じサーチを繰返すにはPF5キーを使用する。

2.4 画面の一時待避と復帰

下記に示す手続きを踏むことによって、表示されている画面(入力文字は含まれない)をいったん待避(スタック)し、画面移動の後、また元の画面に直接戻ることができる

例) .PUSH  : 現在の表示画面を待避する

移動処理

.POP  : 待避した時点の表示画面に復帰する

なお、この待避と復帰は、FIFO (First In First Out) の手法によって行われる(待避した順に復帰する)。

3. コマンド入力

TSSコマンドおよびBTF自身のコマンド(BTF用サブコマンド)を入力するには、画面最上段の空白フィールド(以後、単独入力フィールドと呼ぶ)、またはメニュー項目右側の空白フィールド* (以後、項目指定入力フィールドと呼ぶ)にカーソルを移動し、キーイン後ENTERキーを押下しなければならない。なお、初期画面および画面移動時には、先頭の項目指定入力フィールドにカーソルが位置づけられている。

3.1 カーソル移動

←キーまたは→キーを使用すると、カーソルは画面上の入力可能なフィールドの左端を上から下へ次々に移動する。逆に、←キーを使用すると下から上へ移動する。↓キー、↑キー、→キー、および←キーは、カーソルが入力不可能な場所にも移動するので、必要な時以外はあまり使用しない方がよい。

また、特殊なカーソル移動法として、PF12キー、またはENTERキーのみを押下すれば、カーソルは単独入力フィールドの左端に位置づけされる。なお、PF12キーによるこの機能は、個別に変更することができる(10.2節を参照)。

3.2 BTF用サブコマンドとTSSコマンドとの区別

BTFには、いくつかのサブコマンドがあり、TSSコマンド(READY状態で入力可能なコマンド)と区別するために、"/" (スラッシュ)、"." (ピリオド)、"=" (イコール)、または"?" (疑問符)で始まっている。

BTF用サブコマンドは、一部のもの(ACCESS, TYPE, NOTYPE, RENEW)を除いて、単独入力フィールドと項目指定入力フィールドのいずれに入力する場合でも、その形式と働きは同じであるが、TSSコマンド(以後、単にコマンドと呼ぶことがある)の場合には、入力する形式が異なる。

3.3 単独入力フィールドにおける入力

入力したTSSコマンドは、原則として、そのままの形式で実行する。つまり、READY状態での入力方法と同じである。ただし、例外として、MLIST画面で表示中の区分データセットとして"=" (イコール)を指定することができる。

例) CONDENSE = 図

表示中の区分データセットをコンデンス(圧縮)する。

コマンド文が一行に収まらず継続する必要がある場合には、その行の終りに"+"または"-"(継続記号)を入力する。ただし、継続できる長さは全体が254文字となるまでに制限される。

* データセットメニューでは、3行目に"INPUT FIELD"とタイトル表示されており、メンバメニューでは、"==>"によって示される。

3.4 項目指定入力フィールドにおける入力

項目指定入力フィールドにおけるTSSコマンド名の形式には、次の2種類がある。

(1) 通常使用される英字で始まるコマンド名形式

入力したTSSコマンドは、第1オペランドとしてメニュー項目を指定したように変換される。

データセットメニューの場合には、

コマンド名 ...> コマンド名 データセット名

例)

```
EXAMPCCC CNTL PS DEL  F 80 3120 1 13 790327 PUB002
```

↓

```
DEL EXAMPCCC.CNTL 
```

メンバメニューの場合には、

コマンド名 ...> コマンド名 データセット名 (メンバ名)

例)

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150  
APLA ==> DEL  -
```

↓

```
DEL CMDPROC.CLIST(APLA) 
```

となる。 コマンド名のほかにオペランドを指定した場合には、それらは第2オペランド以降となる。

例)

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150  
APLA ==> REN (XYZ)  -
```

↓

```
REN CMDPROC.CLIST(APLA) (XYZ) 
```

ただし、オペランド指定の中に "=" (イコール) または ":" (コロンイコール) があると次のように変更される。

・データセットメニューの場合

= ...> 同一データセット名

例)

```
EXAMPCCC CNTL PS COMP =  F 80 3120 1 13 790327 PUB002
```

↓ 同一データセット比較によってレコード数を調べる

```
COMP EXAMPCCC.CNTL EXAMPCCC.CNTL 
```

・メンバメニューの場合

= ...> データセット名 (同一メンバ名)

例) -- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
APLA ==> COMP = ㊦ -

↓ 同一メンバ比較によってレコード数を調べる

COMP CMDPROC.CLIST(APLA) CMDPROC.CLIST(APLA) ㊦

:= ...> 同一メンバ名

例) -- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
APLA ==> COPY CMDPROC2.CLIST(:=) ㊦ -

↓ 同一メンバを別のデータセットに作成する

COPY CMDPROC.CLIST(APLA) CMDPROC2.CLIST(APLA) ㊦

なお、入力したコマンドがEDITコマンドの場合には、さらに、次のような処理が追加されている。

- ・フルスクリーンエディタの自動呼出し (EDITのサブコマンドがTSSコマンドデリミタと共に指定されていない時)

(Ⅱ) 通常のコマンド名の前に"-" (マイナス) がついた形式

"-"を除いたTSSコマンドとして実行する。その際、(Ⅰ)の形式変換は行われない。従って、ALLOCATEコマンドのようにデータセット名がキーワードオペランドとなっている場合には、以下のように指定することができる。

例) EXAMPDDD DATA PS -ALLOC F(FT01F001) DA(=) ㊦ F 80 3120 1 13 790327 PUB002

↓

ALLOC F(FT01F001) DA(EXAMPDDD.DATA) ㊦

ここで、オペランドの"=" (イコール) はメニュー項目を示すために使用される((Ⅰ)と同じ)。

なお、入力フィールドの長さが足りない場合は、PF9キーを押して広げることができる。ただし、このフィールドでの最大入力長は56文字で継続はできない。

3.5 入力コマンドにおける制約

BTFでは、TESTコマンドを除くすべてのコマンドを実行できるが、LIBRARYコマンドの有効範囲は本システム内だけに限られ、メニュー画面の終了(READY状態)と同時に無効となる。一方、READY状態で入力したLIBRARYコマンドは、再度READY状態で変更するまで有効である。

また、アテンション出口を定義したコマンドプロシジャの実行中に、アテンションキー(PA1キー)を押下すると、BTFは直ちに終了し、READY状態となる。ただし、この終了は、TSSの動作環境を破壊している場合があるので、十分注意されたい。

3.6 コマンド実行終了後の表示

コマンド実行終了時点において、その完了コードが0(ゼロ)でない場合、下記のメッセージが出力される。

RETURN CODE= nnnnnnn (nnnnnnn:コマンド終了コード)

上記のメッセージが出力されるか、またはコマンドからのメッセージが出力されると、コマンドの実行が終了しても直ちにメニュー画面に戻ることはなく、出力メッセージの次に"***"が表示され、ENTERキーの押下が必要となる。

メニュー画面に戻ると、コマンド実行結果が下記の形式で入力したフィールドに示される。

表示形式	意味
? コマンド名	コマンドが存在しない
* コマンド名	コマンドは正常に終了した
⌋ コマンド名	コマンド実行中にエラーが発生した

実行したコマンドがRENAMEコマンドであり、それが項目指定入力フィールドに入力されたものであれば、コマンド実行結果に従って、メニュー項目は新しい名前に変更される。また、DELETEコマンドの場合には、その項目が削除される。

3.7 一括入力と繰返し入力

TSSコマンドおよびBTF用サブコマンドは、複数行にキーインし、ENTERキーの押下によってそれらを一度に実行させることができる。同一の入力フィールドに複数のコマンドまたはBTF用サブコマンドを入力する場合には、BTFコマンドデリミタ(入力分離符合"|" (縦棒)) *を用いる。このときの実行順序は、画面の上から下へ、行では、BTFコマンドデリミタ単位に左から右へ行われる。なお、ソート用サブコマンドは、単独で指定しなければならない。

* 3.4節のコマンド形式変換は、当デリミタで分離された全てのコマンドに対して行われる。TSSの複数コマンドデリミタを使用する場合には、このBTFデリミタによる入力単位の範囲内で有効である。

入力する T S S コマンドが直前に入力したコマンドと同じ場合には, " = " (イコール) サブコマンドによって代用することができる. この指定は, 一括入力時に使用することもできるし, コマンド実行終了後に画面移動しながら使用することもできる. また, このようなとき, " = " の内容をいったん表示するには " ? " を入力するとよい. なお, B T F 用サブコマンドに対して, " = " サブコマンドを使用することはできない.

一括入力の使用例を図3に, " = " サブコマンドの使用例を図4に示す.

```

==>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXANPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXANPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXANPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXANPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXANPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXANPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXANPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXANPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXANPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXANPJJJ LOAD PO LIBRARY U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXANPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXANPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXANPMHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXANPNHH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXANPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXANPOOO FORT PS RUN F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXANPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXANPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図3. 一括入力の例

```

==>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXANPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXANPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXANPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXANPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXANPEEE FORT PS FORT NOGO OBJ F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXANPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXANPFFF FORT PS = V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXANPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXANPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXANPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXANPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXANPLLL FORT PS = F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXANPMHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXANPNHH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXANPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXANPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXANPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXANPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図4. " = " サブコマンドの使用例

3.8 実行コマンドの一時中断と再開または取消

実行を開始したコマンドがEDITコマンドのようにサブコマンドモードをもつものやPFDまたはSASコマンドのようにTSSコマンド実行機能をもつアプリケーションの場合には、その実行を一時中断して、元のメニュー画面または新たなメニュー画面を表示することができる。実行中断状態では、別のコマンド実行、および中断コマンドの再開またはキャンセルをすることができる。以下に、これらの制御に関するTSSコマンドおよびBTF用サブコマンドを示す。

I) QUITコマンド

コマンド中断後、コマンド呼び出し時のメニュー画面へ復帰する。

例) EDIT モードメッセージ
 X QUIT  EDITコマンドの中断とメニュー画面への復帰

II) FLIST/MLISTコマンド

コマンド中断後、新たなメニュー画面を作成する。

例) EDIT モードメッセージ
 X FL  EDITコマンドの中断とデータセットメニューの表示

中断したコマンド実行を再開するには、メニュー画面でWAKEUPサブコマンドを入力する。また、中断コマンドをキャンセルするには、CANCELサブコマンドを入力する。

なお、コマンド中断は5つのコマンドまで行うことができ、複数ある場合の再開およびキャンセルは、WAKEUP/CANCELサブコマンド入力時の選択メニューで、"W" (再開) または "C" (取消) を指示する。

例) EDIT モードメッセージ
 X QUIT  EDITコマンドの中断とメニュー画面への復帰

BTFによる項目サーチ、

コマンド実行 PERMITコマンドやLDコマンドのようなXコマンドで直接実行できない特殊コマンド*もBTFの下では実行できる

.WAKE  EDITコマンドの再開
 EDIT モードメッセージ

* 特殊コマンドには、LIBRARYコマンド、およびRACF関連のコマンド (RACF使用手引書参照) 等があるが、LIBRARYコマンドは中断状態でのBTFでも実行できない。

3.9 READY状態でのコマンド実行

BTFでは、メニュー情報などを保持したまま、一時的にメニュー表示を停止し、通常のREADY状態でコマンドを実行することができる。この使用法は、コマンドの応答メッセージ（文字列）を見ながら次のコマンドを入力する場合などに有用である。

READY状態への移行はEXITサブコマンドを使用し、メニュー表示の再開はRETURNコマンドまたは新たなメニュー開始コマンド（FLIST/MLIST）を用いる。

```

例) .EXIT           . . . . BTF制御を停止してREADY状態へ移行する
    READY
    STATUS           . . . . バッチジョブの状態を表示する
    JOB F0090A(JOB06756) IS EXECUTING
    JOB F0090A(JOB06755) IS WAITING FOR OUTPUT
    READY
    CANCEL F0090A(J6755) P  . . . ジョブをキャンセルする
    READY
    RETURN           . . . . メニュー表示を再開する
  
```

4. メニュー情報の訂正

BTFのもとでTSSコマンドを実行したとき、コマンド実行結果が必ずしもメニュー画面に反映しているとは限らない。例えば、単独入力フィールドでのDELETEコマンド入力、コマンド実行時のプロンプティングによるパラメータ入力、データセットスペースの拡大などによって、簡単に情報の中味は変更される。従って、これらのメニュー画面に表示されている情報は、BTFのサブコマンドによって訂正できるようになっている。

4.1 表示情報の再設定

表示情報を再設定するには、メニュー画面全体に対する方法と、メニュー項目個々に対する方法とがある。使用するサブコマンドは、いずれも同じRENEWサブコマンドで、単独入力フィールドに入力すれば全体が再設定され、項目指定入力フィールドに入力すれば、そのメニュー項目に関する情報のみが再設定される。なお、実際に存在しないものはこのとき削除される。

4.2 項目追加

メニュー項目（メンバ名またはデータセット名）は、APPENDサブコマンドによって、新たに追加することができる。ただし、このときには、項目名が追加されるだけで、そのほかの情報は、RENEWサブコマンドによって設定しなければならない。追加する項目が実際に存在すれば、同じ目的で、単独入力フィールドにRENEWサブコマンドを入力する方法もあるが、メニュー項目数が多いとその処理に時間がかかる。

データセットメニューにおける追加例を図5に示す。

例) .APPEND EXAMPIJ.FORT 図

```

====>
---- PLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 19
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPIJ FORT ++ VTOC READ ERROR CD=02
EXAMPIJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPHHH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **
DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図5. データセットメニューにおける項目追加の例

5. メニュー表示形式の変更

メニュー画面の表示形式として、データセットメニューでは、図1に示した初期画面形式のほかに、" L R E C L " 以降の情報を削除して項目指定入力フィールド (" INPUT FIELD " とタイトル表示されているところ) を拡大した画面形式と、データセット名の全体を表示するようにした画面形式がある。 また、メンバメニューでは、図2に示した初期画面形式のほかに、別名との対応関係を表示する画面形式がある。 さらに、メニュー項目の順序はその属性情報によって並べ替えることができる。

5.1 項目指定入力フィールドの拡大

カーソルを単独入力フィールドまたは項目指定入力フィールドに移動し、P F 9キーを押すことによって、図6のような画面形式に切り替わる。 図1の初期画面形式に戻すには、もう一度P F 9キーを押下する。

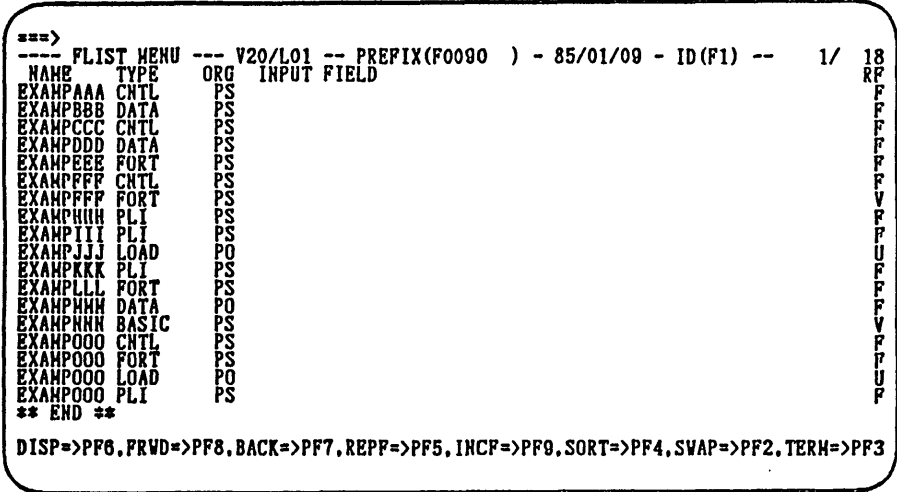


図6. 項目指定入力フィールドを拡大した画面表示例

5.2 データセット名の完全表示

カーソルをデータセット名が表示されている位置に移動し、PF9キーを押すことによって、図7の画面形式に切り替わる。図1の初期画面形式に戻すには、もう一度PF9キーを押下する。

```

name>
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME OF DATA SET      TYPE      ORG      INPUT FIELD
EXAHFAAA.S5912          CMTL     PS
EXAHFBBB.A5911          DATA     PS
EXAHFCCC                CMTL     PS
EXAHFDDD                DATA     PS
EXAHFEEE                FORT     PS
EXAHFFFF.X5802          CMTL     PS
EXAHFFFF                FORT     PS
EXAHFHHH                PLI      PS
EXAHFIII                PLI      PS
EXAHFJJJ.V5710.Z5908    LOAD     PO
EXAHFKKK                PLI      PS
EXAHFLLL                FORT     PS
EXAHFNNH                DATA     PO
EXAHFNNH                BASIC     PS
EXAHFOOO                CMTL     PS
EXAHFOOO                FORT     PS
EXAHFOOO                LOAD     PO
EXAHFOOO                PLI      PS
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図7. データセット名を完全表示する画面形式の例

なお、図7の画面形式から図6の画面形式に変更するには、PF9キーを連続して2回押す。

5.3 ソーティング

データセットメニューの場合には、そのメニュー項目（データセット）に付随する属性情報（作成日など）に対して、メンバメニューの場合には作成時刻およびレコード数（PF DまたはE D I Tコマンドで作成したメンバに限る）に対して、両方向のソーティングができる。ソートは、サブコマンドやPF4キーによって行うことができるが、サブコマンドの場合には、その方向を指示することもできる。方向を省略した場合やPF4キーの場合には、ソートする情報によって方向が決められている。

ソートサブコマンドは、" . S " の次にソートの対象を示す文字を続けて指定する。方向を指示する場合には、さらに " A "（昇順）または " D "（降順）を指定する。

データセットメニューにおける付属情報とソートの対象を示す文字、および方向の省略値は次のとおりである。

- ・データセット名 (NAME) → N: 昇順 (アルファベット順)
- ・内容識別修飾子 (TYPE) → T: 昇順 (アルファベット順)
- ・データセット編成 (ORG) → O: 昇順 (アルファベット順)
- ・レコード形式 (RF) → R: 昇順 (アルファベット順)
- ・レコード長 (LRECL) → L: 昇順

- ・ブロック長 (BLK SZ) → B : 昇順
 - ・エクステント数 (EX) → E : 降順
 - ・確保量 (SPACE) → S : 降順
 - ・使用量 (%) → U : 昇順
 - ・作成日 (CREATE) → D : 降順 (新しい順)
 - ・ボリューム通し番号 (VOLUME) → V : 昇順 (アルファベット順)
- 例) .SS : 確保量の降順にソートする
 .SSA : 確保量の昇順にソートする

また、メンバメニューにおける付属情報とソートの対象を示す文字、および方向の省略値は次のとおりである。

- ・メンバ名 → N : 昇順 (アルファベット順)
- ・作成時刻 → D : 降順 (新しい順)
- ・レコード数 → S : 降順

- 例) .SD : 作成時刻の新しい順にソートする
 .SDA : 作成時刻の古い順にソートする

PF4キーを用いる場合には、カーソルをソートする情報の表示個所に移動し、PF4キーを押下する。この場合、ソートの方向はサブコマンドによる省略値と同じである。

5.4 別名メンバとの対応関係

メンバメニューの表示において、PF9キーを押下すると、図8に示すような画面形式に変更される。メニュー項目(メンバ)が本名の場合には、画面の右側に別名(もしあれば)が表示され、別名("※"記号が付されている)メンバの場合には本名が表示される。なお、再度のPF9キーの押下によって元に戻る。

```

===>
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
ALLOC ==> - ALLOCATE
*ALLOCATE ==> - ALLOC
APL ==> 84/10/28 09:30 50
APLA ==> 84/10/28 09:40 77
ATHAPLA ==> -
ATHEASP ==> -
ATHFCHP ==> -
ATHSGY ==> -
ATHSPL ==> -
AXEL ==> 84/11/20 09:44 29
DEFDB ==> -
*DSC ==> - DSCAN
DSCAN ==> - DSC
*DSL ==> - DSLIST
DSL ==> - DSL
DSTATUS ==> - DSTATUS
DST ==> - DST
DSTATUS ==> -
EASYSPPS ==> -
ENDQ ==> -
FCHP ==> -
TYP=REC(F),LR(==80),BLK(*6180),EXT(*1),TRK(*30,==16),DIR(*50,==4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図8. 別名メンバとの対応関係を表示した画面形式の例

〔注：区分データセットがソース形式で，PFDまたはEDITコマンドで作成したメンバであれば作成時刻とレコード数も表示される。〕

5.5 メニュー項目名による選択表示

特定のメニュー項目をその名前の特徴によって選択し，該当するものだけを表示（抽出画面）することができる。抽出画面の中から，さらに選択指示を行うと，それらは追加抽出となる。抽出状態は画面左上の"SELECT"の表示によって識別できる。

抽出画面はすべてのメニュー項目選択指示（"＊"）によって解除される。

- 例）.SEL A＊ : Aで始まるもの
 .SEL ＊A : Aで終わるもの
 .SEL ！A＊ : Aで始まるもの以外
 .SEL ＊ : 抽出表示の解除

内容識別修飾子が"CNTL"または"FORT"のデータセットを表示する例を以下に示す。

```
===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA CNTL PS .SEL *.CNTL F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHBBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHCCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHDDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHEEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHFFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHGFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB008
EXAHHHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHIIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHJJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHKKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHLLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHMMMM DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHNNNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHOooo CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHOooo FORT PS F 80 400 1 28 ** 800822 PUB008
EXAHOooo LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHOooo PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

図 9 . *.CNT L の選択指示



```
===>
-- SELECT MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 4
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA CNTL PS .SEL *.FORT F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHCCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHFFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHOooo CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

図 1 0 . *.F O R T の選択指示



```

===>
-- SELECT MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 8
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHAPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHAPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHAPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHAPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHAPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

図11. *.CNTLおよび*.FORTの選択表示例

5.6 メニュー項目の表示抑止

表示されているメニュー項目は, ".X" (EXCLUDEサブコマンド) または ".XX" (範囲指定のEXCLUDEサブコマンド) によって表示を抑止することができる。

表示抑止したメニュー項目はRECOVERサブコマンドによって再表示される。

例)

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHAPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHAPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHAPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHAPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHAPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHAPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHAPHHH PLI PS .XX F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPIII PLI PS U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHPIII PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPHHH DATA PD F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHPHHH BASIC PS .XX V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPOOO LOAD PD U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

図12. メニュー項目の表示抑止例

6. 複数メニュー画面の生成

1つのメニュー画面から別のメニュー画面を生成（表示）した場合、それらの生成したメニュー画面は有機的に結合され、新たに表示したメニュー画面を終了しなくても、画面の切り替えを行うことによって、元のメニュー画面を使用することができる。

6.1 画面生成の状態表示

PF6キーを押下すると、コマンド履歴画面（8章）および同義文字列定義画面（10章）を含む画面生成の状態が表示される。生成した各画面の2行目には、画面を識別する記号（画面識別子：ID）がついており、これは画面切り替え時に指定することができる。

画面生成の状態表示の例を図13に示す。

====>			
----- SCREEN USAGE INFORMATION -----			
ID.	TYPE	FORMAT	
CHD	COMMAND STREAM	ALL	
SYN	SYNONYM DEFINITION	ALL	
F1	FLIST MENU (FO090)	* ALL	
M1	MLIST MENU	FO090.CHDPROC.CLIST	SELECT(*)

SWAP=>PF2, TERM=>PF3

図13. 画面生成の状態表示画面の例

6.2 画面の切り替え

生成された複数のメニュー画面（F_n, M_n（n：1～9））は、コマンド履歴画面（CMD）や同義文字列定義画面（SYN）とは別に、リング状に結合される。リングには方向があり、前述の状態表示画面において、上から下へ形成されている。新たなメニュー画面を生成すると、二重輝度（カラーディスプレイの場合には赤色）で示されるリング内位置の次に位置付けられる。

画面の切り替えには、PF2キーを用いる。このとき、PF2キーのみを押下すれば、リングの逆方向に切り替えられて、該当するメニュー画面が表示される。また、画面識別子をキーインしてPF2キーを押下すると、直接、目的の画面が表示される。なお、画面生成の状態表示画面から別の画面に切り替える場合には、画面識別子をキーインするかわりに、カーソルを目的の表示行に合わせてPF2キーを押下する方法もある。

6.3 画面間で独立な機能

" / " (スラッシュ) サブコマンドおよび F I N D サブコマンドの情報は、画面単位に記憶される。従って、同じ P F 5 キーの押下によって、画面ごとに独立な繰返しサーチを行うことができる。

6.4 画面間で共有される機能

「2.4 画面の一時待避と回復」で説明した画面の制御方式、および「3.7 一括入力と繰返し入力」で説明した " = " (イコール) サブコマンドは、すべての画面間にまたがって使用することができる。また、登録した記号変数や P F キー (10章) は、すべての画面で等しく使用できる。

6.5 新たなメニュー画面生成時の制約

2番目以降のメニュー画面生成において、次のような制約事項がある。

- (1) 「3.7 一括入力と繰返し入力」で説明した一括入力において、メニュー生成のための F L I S T コマンドまたは M L I S T コマンド以降の入力は無視される。
- (2) 生成できるメニュー画面の数は9画面までである。

6.6 メニュー画面の削除

表示中のメニュー画面を削除するには、P F 3 キーを用いる。このとき、リング方向に従って、直前のメニュー画面が表示される。また、画面生成の状態表示画面 (図13) で、画面識別子をキーインし (カーソルで指示することも可能)、P F 3 キーを押下すれば、そのメニュー画面が消滅する。すべてのメニュー画面を一度に終了するときには、" A L L " をキーインし P F 3 キーを押下する。

7. 内容識別修飾子の取り扱い変更

B T Fでは、メニュー画面の初期表示（生成）時において、データセット名が3つ以上の修飾子から構成される場合、最後の修飾子が自動的に内容識別修飾子として取り扱われる。そこで、これらの修飾子がT S Sコマンド規約に適合しないとき、コマンド実行時に不都合が生じる場合がある。例えば、"ユーザ名.ABC.SOUCE"というデータセットは、最後の修飾子名がE D I Tコマンドで扱えるデータセットタイプ名ではないため、そのままでは編集できない。このようなときには、内容識別修飾子がないものとして動作するように指示する必要がある。

7.1 データセットメニューでの変更

データセットメニュー画面では、個々のメニュー項目に対して内容識別修飾子の取扱いを変更する方法と、メニュー全体に対して変更する方法とがある。いずれの場合も、入力するサブコマンドは同じで、入力するフィールドが項目指定入力フィールドか単独入力フィールドかによってその対象が異なるだけである。内容識別修飾子を無効にするには、NOTYPEサブコマンドを使用する。逆に、有効にする（元に戻す）には、TYPEサブコマンドを使用する。

メニュー項目に対して内容識別修飾子を無効にした例を図14に示し、全体に対して無効にした例を図15に示す。指定したデータセット名が連続して表示されている点に注目されたい。

```

==>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 19
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAA CCTL PS .NOTYPE F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHBBB.A5911.DA PS .NOTYPE F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHCCC CCTL PS .NOTYPE F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHDDD DATA PS .NOTYPE F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE FORT PS .NOTYPE F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHFFFF CCTL PS .NOTYPE F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHFFFF FORT PS .NOTYPE V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHPIII PLI PS .NOTYPE F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHPIII PLI PS .NOTYPE F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPIJ FORT ++ VTOC READ ERROR CD=02
EXAHPIJ LOAD PG U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHPIK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPLMM DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHPLNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHPOOO CCTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
== END ==
DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図14. データセットメニュー項目に対して内容識別修飾子を無効にした例

```

===> .NOTYPE
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 19
NAME ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA.S5912.CN PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHBBBB.A5911.DA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHCCCC.CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHDDDD.DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE.FORT PS F 80 400 7 91 88 800213 PUB014
EXAHFFFF.X5802.CN PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHFFFF.FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHPHHH.PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHPIII.PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPIJ.FORT ++ VTOC READ ERROR CD=02
EXAHPIJJ.V5710.Z5 PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHPIKK.PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHPILLL.FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPIHHH.DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHPIHHH.BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHPIHHH.CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHPIHHH.FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPIHHH.LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHPIHHH.PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **
DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図15. データセットメニュー全体の内容識別修飾子を無効にした例

7.2 メンバメニューでの変更

メンバメニュー画面では、コマンド制御の対象となるデータセットが1つであることから、メニュー全体に対してのみ、内容識別修飾子の取り扱い変更を行うことができる。従って、NOTYPEサブコマンドおよびTYPEサブコマンドは、単独入力フィールドと項目指定入力フィールドのいずれに入力してもその効果は同じである。

内容識別修飾子を無効にした例を図16に示す。下から2行目の先頭3文字が" TYP "から" NTY "に変更されている点に注目されたい。

```

===>
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
ALLOCC ==>
*ALLOCATE ==> .NOTYPE
APL ==>
APLA ==>
ATNAPLA ==>
ATNEASP ==>
ATNFCMP ==>
ATNSGY ==>
ATNSPL ==>
AXEL ==>
DEFDB ==>
*DSC ==>
DSCAN ==>
*DSL ==>
DSLST ==>
*DST ==>
DSTATUS ==>
EASVSPSS ==>
ENDQ ==>
FCMP ==>
NTY-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図16. メンバメニュー画面で内容識別修飾子を無効にした例

8. 実行コマンドの履歴と再入力

B T Fでは、実行したT S Sコマンドについて、その履歴が保存されている。このコマンド履歴は、いつでも再実行できる。

8.1 履歴画面の呼び出し

単独入力フィールドに " C M D " (画面識別名) をキーインし、P F 2キーを押下する。このときの画面の表示例を図17に示す。

```

====>
----- TSS COMMAND INPUT STREAM ----- ID(CHD) -- 1/ 5
*LIBRARY  EXAMPJJJ.V5710.Z5908.LOAD
*RUN      EXAMP000.FORT
*FORT     EXAMPEEE.FORT NOGO OBJ
*FORT     EXAMPFFF.FORT NOGO OBJ
*FORT     EXAMPLLL.FORT NOGO OBJ
** END **

FRVD=>PF8, BACK=>PF7, REPF=>PF5, REST=>PA2, DISP=>PF6, SWAP=>PF2, TERM=>PF3

```

図17. 実行コマンド履歴の画面表示例

8.2 コマンドの再入力

実行したコマンドのコマンド文を再使用する場合には、該当する表示行の先頭の1文字(*または-)を削除し*, E N T E Rキーを押下する。このとき、必要ならば、コマンド名やオペランドを修正することもできる。入力したコマンドは、実行後、履歴の最後に追加される。

履歴画面の移動は、メニュー画面の時と同様に、P Fキーや"/" (スラッシュ) サブコマンドを使用するが、そのほかに、F I N Dサブコマンドを使用した文字列の検索によって移動することもできる。

例) .FIND /FORT NOGO/ 

F I N Dサブコマンドと"/"サブコマンドとの違いは、検索対象がオペランドであるかコマンド名であるかによる。ただし、F I N Dサブコマンドの場合には、任意文字列を示す"*"は指定できない。

8.3 履歴画面の終了

履歴画面を呼び出した時のメニュー画面に復帰するには、P F 3キーを押下する。

*複数行にわたって表示されるコマンドについては、すべての行の少なくとも1つの文字を再入力しなければならない。入力しない場合には、その行が不要であるとみなされる。

9. オペレーション代行

表示画面上で行うカーソル移動やキー入力操作は、BTFのサブコマンドによって代用（シミュレート）することができる。さらに、これらのサブコマンドは、PFキーや記号変数（10章）の定義に組み込むことによって利用される。

9.1 カーソル移動操作

カーソル移動をシミュレートするには、CURSORサブコマンドを使用する。CURSORサブコマンドでは、カーソルを移動するキー操作をシミュレートするほかに、画面の位置を直接指定してカーソルを移動することもできる。

例) .CURSOR FSKIP(2) 

→キーを2回押す。

.CURSOR BSKIP 

←キーを1回押す。

.CURSOR LEFT(6) 

←キーを6回押す。

.CURSOR POS(4,10) 

カーソルを4行10列の位置に移す。

9.2 キー入力操作

キー入力をシミュレートするには、SOSサブコマンドを使用する。この場合、カーソル位置からの文字列のキーイン、およびENTERキーやPFキー等の押下が対象になる。SOSサブコマンドでは、キー識別のために予約文字列（ENTER, PF n (n: 1~24)）があり、それらを単独でキーイン文字とすることはできない。

例) .SOS ENTER : ENTERキーの押下

.SOS PF2 : PF2キーの押下

.SOS PF24 : PF24キーの押下

.SOS EDIT NONUM : "EDIT NONUM"のキーイン

.SOS PF25 : "PF25"のキーイン

.SOS PF2.1 : "PF2.1"のキーイン

10. 個別設定機能（パーソナライズ）とその使用法

個別設定は、TSSで決まっているコマンドの入力形式を変更したり、PFキーに独自の機能を設定することができる。さらに、BTF起動コマンド（FLIST/MLIST）のオペランド省略値を変更することもできる。

10.1 同義文字列の定義

BTFでは、よく使用する入力文字列を記号化し、それらを利用することによって、キー入力をより簡略化することができる。この簡略入力のための記号（以後、記号変数と呼ぶ）は、"&"（アンパサンド）で始まる9文字以内の英数字列（"&"の直後は英字でなければならない）で、その定義できる内容は、60字以内の文字列である。定義文字列の中には、記号変数を含むこともでき、60字の長さ制約を回避したり、定義自身を簡略化することができる。ただし、記号変数を定義文字列で置き換えた時、全体の長さが254文字を越えることはできない。また、そのときに、さらに記号変数が含まれる形式になってはならない。

同義文字列を定義するには、まず定義画面を呼び出し（10.1.1節）、フルスクリーンエディタによって編集する。次に、INTERPRETサブコマンドによって解釈し、BTFに登録する。登録した定義文字列は、（TSSセッションが変わっても）次の登録まで有効であり、BTF配下ではいつでも使用することができる。

10.1.1 定義画面の呼び出し

単独入力フィールドに"SYN"（画面識別名）をキーインし、PF2キーを押下する。このときの画面の表示例を図18に示す。

```

===>
----- SYNONYM DEFINITION TABLE ----- ID(SYN) -- 1/ 1
NAME      STRING
&PF5.6    ==> .C/*
** END **
=====

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,RSET=>PF9,INTR=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

図18. 同義文字列の定義画面の例

10.1.2 編集方法

フルスクリーンエディタによる編集では、表示されている文字列を直接変更できるほか、下記の行サブコマンドによって基本的な作業を行うことができる。

I (追加)
 D (削除)
 DD (範囲削除)
 R (繰返し)
 RR (範囲繰返し)
 C (複写)
 CC (範囲複写)
 M (移動)
 MM (範囲移動)
 A (後)
 B (前)

行サブコマンドは、画面右側の " * == * " が表示されているフィールドに入力する。上記の行サブコマンドのうち、" I " および " R " は、その後に数字を指定し、複数行を処理することができる。また、下記に示すように、対をなして用いなければならない行サブコマンドがある。

DD - DD
 RR - RR
 (CまたはM) - (AまたはB)
 (CC-CCまたはMM-MM) - (AまたはB)

例) * == *

MM == *

* == *

* MM *

* == A

これらの対になった行サブコマンドは、画面にまたがって指定することができ、その際、画面には、" P E N D I N G " の表示がなされる。なお、この状態は、P F 9 キーによって解除することもできる。

また、編集作業を補助するサブコマンドとして、F I N D サブコマンドと C H A N G E サブコマンドがある。これらの入力形式は、

. F I N D /文字列/
 . C H A N G E /文字列1/文字列2/ [ALL]

である。F I N D サブコマンドでは、画面の2番目の定義文字列（左端の記号変数フィールドは含まれない）から指定の文字列が検索され、それ以降の定義が画面の先頭から表示される。C H A N G E サブコマンドでは、画面の先頭の定義文字列の中から指定した文字列が新しい文字列で置き換えられる。" A L L " パラメータを指定すると、画面の先頭の定義文字列だけでなく、それ以降も同様な処理が施される。また、オペランドを省略した場合には、前回指定したオペランド

が使用される。これらのサブコマンドは、PFキーと併用することによって操作性が増す。つまり、オペランド省略のCHANGEサブコマンドをPFキー（標準的には、PF6キー）に設定しておけば、一度FINDサブコマンドとCHANGEサブコマンドを実行した後、PF5キーの繰返し検索によって、目的の文字列が含まれるものの前後関係を判断しながら、必要なもののみをPF6キーによって置き換えることができる。

さらに、本エディタでは、変更ミスの救済手段として、リカバリ機能がある。画面の2行目に"ALTERED-R"の表示がある時に、RECOVERサブコマンドを入力すると、変更直前の状態が復元される。この復元された状態では、表示が"ALTERED"になり、続けてRECOVERサブコマンドを入力すると、BTFに登録されている定義状態（初期状態と呼ぶ）が復元される。

なお、同義文字列の表示において、文字列の最後は、ブランク (blank) とナル (null) とを区別できるように、"/*"が付加された形で表示される。

10.1.3 登録と復元

編集した同義文字列は、INTERPRTサブコマンドまたはPF4キーによってシステムに登録される。正常に登録されると、画面上の"ALTERED"の表示が消え、以後の編集における初期状態となる。登録した定義情報は、BTFを終了すると自動的に保存される。終了以前であれば、初期状態("ALTERED"が表示されていない状態)でのRECOVERサブコマンドの入力によって、BTF起動時の内容に戻すこともできる。従って、恒久的な定義と一時的な定義を使い分けることが可能である。

10.1.4 利用法

登録した記号変数は、BTFで表示されるすべての画面で使用できる。また、同義文字列の定義画面においては、下記の例に示すように、既に定義した記号変数を、それ以降の定義のオペランドに引用し、利用することができる。

```
&S ==> SYSOUT (A) /*
&LS ==> LIST &S /*
```

記号変数の使い方は、TSSコマンドプロシジャの場合と類似しており、記号変数の終りを示す". "(ピリオド) は、その後に英数字または". "が続く場合を除いて省略できる。

例) 記号変数"&ABC"の内容が"EFG"の場合、次のようになる。

```
&ABC (XYZ) -> EFG (XYZ)
&ABC. XYZ -> EFGXYZ
&ABC.. XYZ -> EFG. XYZ
```

また、記号変数を入力先の先頭で使用する場合は"&"を省略できる。この機能を用いれば、記号変数として定義したものをコマンドとして自由に利用することができる。

例) 先の定義例で、

```
LS NONUM ④
```

とすると、

LIST SYSOUT (A) NONUM
を入力したことになる。

10.1.5 定義画面の終了

定義画面を呼び出したメニュー画面に復帰するには、PF3キーを押下する。なお、定義文字列の編集途中 (INTERPR Tサブコマンドを入力しない) でPF3を押した場合、再度の呼出しで作業を続行できる。ただし、BTFを終了するときには登録した内容しか保存されない。

10.2 PFキーの定義

PF2キーおよびPF3キーを除くすべてのPFキーは、前述の「10.1 同義文字列の定義」と同じ方法によって、BTFのサブコマンドを利用者独自に設定することができる。

PFキーは、記号変数として、"PF"に続いて1～12の数字 (13～24はPFキーとはならない) を指定した場合に設定される。また、PFキーの定義の場合には、そのほかに特別な記述法として、定義文字列の中に "&1", "&2", ..., "&9" を指定することができる。これらは、記号変数ではなく、PFキーを押下するときのパラメータとなる。

さらに、このPFキー設定では、直前に押下したPFキーを条件にすることもできる。

例1) PF1キーを押したとき、コマンド履歴画面 (図17) を表示させる。

&PF1 ==> .SOS ENTER | .SOS CMD | .SOS PF2 / *
 ① ② ③

説明: ①ENTERキーを押して、カーソルを単独入力フィールドに移動する。

②画面識別名"CMD"をキーインし、

③PF2キーを押して、履歴画面を呼び出す。

例2) PF12キーを押したとき、EDITコマンドを実行させる。そのとき、パラメータも指定できるようにする。

&PF12 ==> .SOS EDIT &1 &2 | .SOS ENTER / *
 ① ②

説明: ①文字列"EDIT"とPF12キーのパラメータをキーインする。

"&1"および"&2"は、PF12キーを押した時、そのパラメータ (ブランクで区切られた入力文字列) を挿入する位置を示す。

②ENTERキーを押す。

入力と生成結果との関係は次のようになる。

```

③          ...> EDIT ③
NON ③      ...> EDIT NON ③
NON ASIS ③ ...> EDIT NON ASIS ③

```

例3) P F 1 キーを押したとき、コマンド履歴画面 (図 1 7) および同義文字列定義画面 (図 1 8) を交互に表示させる。

```
&PF2.1 ==> .SOS ENTER | .SOS SYN | .SOS PF2 | .PUSH | .SOS PF7 | .POP/*
               ①         ②         ③         ④         ⑤         ⑥

&PF1  ==> .SOS ENTER | .SOS CMD | .SOS PF2/*
               ①         ②         ③
```

最初の定義は、P F 2 キーの後に P F 1 キーを押したときの条件付 P F キーを示し、2 番目は条件無しの定義を示す。同じ P F キーに対して、条件付と条件無しの両方を定義する場合、条件無しをかならず最後に指定しなければならない。

1 行目の説明：

- ① ENTER キーを押して、カーソルを単独入力フィールドに移動する。
- ② 画面識別名 " SYN " をキーインし、
- ③ P F 2 キーを押して、定義画面を呼び出す。
- ④ 表示画面を一時的に待避する。
- ⑤ P F 7 キーを押す。(P F キーの最新履歴更新)
- ⑥ 待避画面に復帰する。

2 行目の説明：

- ① ENTER キーを押して、カーソルを単独入力フィールドに移動する。
- ② 画面識別名 " CMD " をキーインし、
- ③ P F 2 キーを押して、履歴画面を呼び出す。

なお、P F キーには、表示画面によって多少異なるが、標準的な設定があり、以下のようになっている。

P F キーの種類	設 定 内 容
P F 2	画面の切り替え
P F 3	画面の終了
P F 4	(Ⅰ)データセットまたはメンバメニューの場合、ソーティング (Ⅱ)同義文字列定義画面の場合、INTERPRTサブコマンドの実行
P F 5	項目サーチの繰返し
P F 6	(Ⅰ)P F 5 押下直後の場合、CHANGEサブコマンドの実行 (Ⅱ)上記以外の場合、複数画面生成の状態表示
P F 7	" / - 2 0 " の実行
P F 8	" / + 2 0 " の実行
P F 9	(Ⅰ)メニュー画面の場合、画面表示形式の変更 (Ⅱ)同義文字列定義画面の場合、" P E N D I N G " 状態の解除
P F 1 2	単独入力フィールドへのカーソル移動

上記の標準設定を変更する場合 (ただし、P F 2 および P F 3 は変更できない)、P F 9 キーの内容は代替手段がないので注意されたい。

10.3 コマンドの実行制御

FLISTコマンドのオペランド省略時解釈, およびBTF配下でのコマンド実行 (EDIT, DELETE) に関して, 以下の環境を設定することができる. なお, 設定はSETサブコマンドを使用する.

i) FLISTコマンド

VOL, DSN, スペース量単位の省略値

例) .SET VOL(→MI*) DSN(30) SPACE(TRACK) 

以下の条件をFLISTのオペランド省略時解釈にする.

- ・ボリューム通し番号が"MI"で始まらない.
- ・データセット名が30文字以内のものしか表示しない.
- ・データセットのスペース量をトラック単位で表示する.

ii) DELETEコマンド

実際に消去する前の問合せ

例) .SET DEL(PROMPT)  . . . 実行前の問合せをする.
 .SET DEL(NOPRO)  . . . 実行前の問合せをしない.

iii) EDITコマンド

内容識別修飾子がないデータセットに対して与えるデータタイプ

例) .SET TYPE(TEXT)  . . . "TEXT"タイプを与える.
 .SET TYPE  . . . プロンプト後に入力する.

10.4 開始コマンドのオペランド省略

FLISTコマンドおよびMLISTコマンドのオペランドはシステムに記憶させることができ, 次回以降の指定を省くこと(コマンド名だけの入力)ができる. これらのオペランドは, メニュー画面が表示された後に, SAVEサブコマンドを入力することによって記憶される. 記憶は, FLISTコマンドとMLISTコマンドでそれぞれ独立に行うことができ, 次のSAVEまで有効である. それぞれの記憶内容は, SHOWサブコマンドによって表示できる.

例) .SHOW  . . . 記憶しているオペランドを表示する

FLIST : * ALL VOL (PUB*)

MLIST :

FL  . . . 記憶しているオペランドでFLISTコマンドを実行する
 "FLIST * VOL(PUB*)"を入力するのと同じ

第2部 TTY端末における使用法

第2部では、TTY無手順端末における使用法を解説する。1行80桁表示可能な端末であれば、ディスプレイ型端末でもよいし、タイプライタ型端末でもよい。機種による操作上の違いはない。具体的な機種名については、九大大型計算機センター広報の「TSS端末一覧」の欄^{*}に掲載されている。

これらの端末では、以下のような表示が行われ、READYモードでのコマンド入力形式のほかに、データセットに付けられた番号(1~20)を指定することによって、コマンド入力を容易に行える。

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPA A CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMW DATA  PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --

```

* 端末一覧の欄は、Vol.16以降ではNo.1とNo.4に掲載されている(ただし、Vol.19ではNo.2)。

1. 開始と終了

BTF (TSSコマンド入力支援システム) は、TSSのLOGON処理終了後、コマンド入力モード (READY状態) において、下記のいずれかのコマンド入力によって開始する。

- (I) データセットメニュー表示 : FLIST コマンド
- (II) 区分データセットのメンバメニュー表示 : MLIST コマンド

1.1 FLISTメニュー

FLIST コマンドを用いると、カタログしているデータセット (ただし、VSAMデータセットを除く) が20個を単位としてメニュー形式で表示される。さらに、FLIST コマンドのオペラントにデータセット名の特長やデータセット編成 (順データセット、区分データセットの別) を指示することによって、それらを選択して表示することができる。表示の一例を図1に示す。

例)

FLIST 例

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST

```

図1. FLIST コマンドによるデータセットメニューの表示例

(图中、PSおよびPOはそれぞれ順データセット、区分データセットを示す)

1.1.1 名前による選択

データセット名の第1修飾子 (通常、ユーザ識別修飾子) を除く名前の特徴を、FLIST コマンドの第1オペラントに下記のように指示することによって、表示メニューの項目を選択できる。

- AB* : "AB" で始まるもの
- *AB : "AB" で終わるもの
- *, FORT* : 内容識別修飾子*が "FORT" で始まるもの
- *AB.* : ユーザ指定名**が "AB" で終わるもの
- A*B.* : ユーザ指定名が "A" で始まり "B" で終わるもの
- AB*. FORT : "AB" で始まり内容識別修飾子が "FORT" であるもの
- *ABC*. * : ユーザ指定名に "ABC" を含むもの
- *, * : 内容識別修飾子をもつもの
- ¬*, * : 内容識別修飾子をもたないもの
- * : すべて

* 3以上の修飾子からなるデータセット名において、最後の修飾子が内容識別修飾子とみなされる
 **データセット名から第1修飾子と内容識別修飾子を除いたものがユーザ指定名とみなされる。

ここで, " * " (アスタリスク) は任意の文字列を示す. FLIST コマンドのオペランド指定が全くない場合には " * " になる.

- 例) FLIST *.FORT ④ . . . 内容識別修飾子が " F O R T " のものを表示する.
 FLIST A* ④ . . . データセット名が " A " で始まるものを表示する.
 FLIST ④ . . . すべてのデータセットを表示する.

1.1.2 編成による選択

データセット編成のタイプを選択するパラメータとして, 次のものを指定できる. 省略時は " A L L " である.

- P S : 順データセット
 P O : 区分データセット
 A L L : すべてのデータセット

当パラメータを指定するときは, 名前による選択パラメータを省略できない.

- 例) FLIST * PO ④
 すべての区分データセットを表示する

1.1.3 ボリュームによる選択

データセットの存在するボリューム通し番号の特徴を, 名前による選択パラメータの後に指定する. 省略時は全ボリュームが対象となる.

- 例) FLIST * VOL(PUB*) ④
 ボリューム通し番号が " P U B " で始まるものをすべて表示する.
 FLIST * V(¬MIGRAT) ④
 ボリューム通し番号が " M I G R A T " 以外のものをすべて表示する.

1.2 MLIST メニュー

MLIST コマンドを用いると, 1つの区分データセット中のメンバ名一覧がメニュー形式で表示される. メンバ名が (あるメンバの) 別名となっている場合には, メンバ名の左横に " * " (アスタリスク) 記号が付されている. 表示の一例を図2に示す.

例)
MLIST CMDPROC.CLIST ④
 -- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
 TYP-REC(F), LR(***80), BLK(*6160), EXT(*1), TRK(**30,**16), DIR(*50,**4), VOL(PUB029)
 1 ALLOC 5 ATNAPLA 9 ATNSPL 13 DSCAN 17 DSTATUS
 2 *ALLOCATE 6 ATNEASP 10 AXEL 14 *DSL 18 EASYSPSS
 3 APL 7 ATNFCMP 11 DEF 15 DSLIST 19 ENDQ
 4 APLA 8 ATNSGY 12 *DSC 16 *DST 20 FCMP
 MLIST

図2. MLIST コマンドによるメンバメニューの表示例

〔上から3行目は区分データセットの属性 (ロード形式, ロード長, カック長, エクステント数, トラック数 (確保量, 使用量), フィットリ・ブロック数 (確保量, 使用量), ボリューム通し番号) を示す〕

1.3 メニュー表示の終了

FLISTおよびMLISTメニュー表示を終了するには、ENDサブコマンドを用いる。そのままTSSセッションも終了するのであれば、LOGOFFコマンドまたはLOGONコマンドを入力してもよい。

例) .END ☒

2. メニュー項目の移動

2.1 相対位置による移動

端末に表示されている先頭の項目からの相対番号を"/" (スラッシュ) 記号の後に符号と共に指定することによって、メニュー項目の前後の移動が行われる。なお、"/±20" に対しては特別のサブコマンドが用意されている。

例) /+10 : 10項目先へ
 /-10 : 10項目後へ
 .UP : 20項目後へ
 .DOWN : 20項目先へ

2.2 絶対位置による移動

端末に表示される先頭のメニュー項目の位置を直接的に指定することによって、項目表示を移動することができる。

例) .TOP ☒ : 最初の項目を表示する。
 .BOTTOM ☒ : 最後の項目を表示する。

また、特別な指定法として、メニュー項目の番号と"/"を"n□/"の形式で入力すれば、その項目が先頭へ移動する。

例) 15 /☒ : 番号15の項目が先頭に移動する。

2.3 項目サーチによる移動

メニュー項目の文字列またはその一部を指定し、該当する項目を検索することによって、画面の移動を行うことができる。

例) /AB* : "AB"で始まる項目のサーチ。"/AB"と指定してもよい。
 /*AB : "AB"で終わる項目サーチ。
 /A*B : "A"で始まり"B"で終わる項目のサーチ。
 /A*B*C : "A"で始まり"B"を含み"C"で終わる項目のサーチ。

なお、サーチ処理は、表示されている2番目の項目から下に向かって一巡するまで行われる。該当する項目が見つからない場合は、最終のメニュー項目が表示される。

3. コマンド入力

TSSコマンドおよびBTFのサブコマンドの入力形式には、以下に示すように、READY状態と同じ入力形式（以後、単独入力形式と呼ぶ）と、メニュー項目番号を指定した入力形式（以後、項目指定入力形式と呼ぶ）がある。

I) コマンド名_オペランド

例) LISTALC STATUS ☐
 .RENEW ☐

II) n_コマンド名 (n: 1~20)

例) 9 EDIT NONUM ☐
 9 .RENEW ☐

3.1 BTF用サブコマンドとTSSコマンドとの区別

BTFには、いくつかのサブコマンドがあり、TSSコマンド（READY状態で入力可能なコマンド）と区別するために、"/"（スラッシュ）、"."（ピリオド）、または"="（イコール）で始まっている。

3.2 TSSコマンド入力

3.2.1 単独入力形式によるTSSコマンド入力

通常のREADY状態と同じ形式で入力する。

例) LISTC ☐
 STATUS ☐

3.2.2 項目指定入力形式によるTSSコマンド入力

項目指定入力形式によるTSSコマンド名の形式には、次の2種類がある。

(I) 通常使用される英字で始まるコマンド名形式

入力したTSSコマンドは、第一オペランドとしてメニュー項目を指定したように変換される。

データセットメニューの場合には、

n_コマンド名 ...> コマンド名 データセット名

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI  PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI  PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI  PS      18 EXAMPOOO PLI  PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT PS     19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO     20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS     -- CONTINUE --
FLIST
3 EDIT ☐

```

↓

EDIT EXAMPCCC.CNTL ☐

メンバメニューの場合には、

n コマンド名 ...> コマンド名 データセット名(メンバ名)

例)

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC          5  ATNAPLA          9  ATNSPL          13  DSCAN          17  DSTATUS
2  *ALLOCATE      6  ATNEASP         10  AXEL           14  *DSL           18  EASYSPSS
3  APL            7  ATNFCMP         11  DEF            15  DSLIST         19  ENDQ
4  APLA          8  ATNSGY          12  *DSC           16  *DST           20  FCMP
MLIST
```

3 EDIT ␣

↓

EDIT CMDPROC.CLIST(APL) ␣

となる。 コマンド名のほかにオペランドを指定した場合には、それらは第2オペランド以降となる。

例)

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC          5  ATNAPLA          9  ATNSPL          13  DSCAN          17  DSTATUS
2  *ALLOCATE      6  ATNEASP         10  AXEL           14  *DSL           18  EASYSPSS
3  APL            7  ATNFCMP         11  DEF            15  DSLIST         19  ENDQ
4  APLA          8  ATNSGY          12  *DSC           16  *DST           20  FCMP
MLIST
```

3 REN (XYZ) ␣

↓

REN CMDPROC.CLIST(APL) (XYZ) ␣

ただし、オペランド指定の中に "=" (イコール) または ":" (コロニイコール) があると次のように変更される。

・データセットメニューの場合

= ...> 同一データセット名

例)

```
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1  EXAMPAAA CNTL PS      8  EXAMPHHH PLI  PS      15  EXAMPOOO CNTL PS
2  EXAMPBBB DATA PS     9  EXAMPIII PLI  PS      16  EXAMPOOO FORT PS
3  EXAMPCCC CNTL PS     10  EXAMPJJJ LOAD PO      17  EXAMPOOO LOAD PO
4  EXAMPDDD DATA PS    11  EXAMPKKK PLI  PS      18  EXAMPOOO PLI  PS
5  EXAMPEEE FORT PS     12  EXAMPLLL FORT PS      19  EXAMPXXX FORT PS
6  EXAMPFFF CNTL PS     13  EXAMPMMM DATA PO      20  EXAMPXXX LOAD PO
7  EXAMPFFF FORT PS     14  EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST
```

3 COMPARE = ␣ : 同一データセットの比較によってレコード数を調べる

↓

COMPARE EXAMPCCC.CNTL EXAMPCCC.CNTL ␣

・メンバメニューの場合

= ...> データセット名 (同一メンバ名)

```
例) -- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC      5  ATNAPLA      9  ATNSPL      13  DSCAN      17  DSTATUS
2  *ALLOCATE   6  ATNEASP     10  AXEL       14  *DSL      18  EASYSPSS
3  APL        7  ATNFCMP     11  DEF        15  DSLIST    19  ENDQ
4  APLA       8  ATNSGY      12  *DSC       16  *DST      20  FCMP
MLIST
```

3 COMP = CB : 同一メンバの比較によってレコード数を調べる

↓

COMP CMDPROC.CLIST(APL) CMDPROC.CLIST(APL) CB

:= ...> 同一メンバ名

```
例) -- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC      5  ATNAPLA      9  ATNSPL      13  DSCAN      17  DSTATUS
2  *ALLOCATE   6  ATNEASP     10  AXEL       14  *DSL      18  EASYSPSS
3  APL        7  ATNFCMP     11  DEF        15  DSLIST    19  ENDQ
4  APLA       8  ATNSGY      12  *DSC       16  *DST      20  FCMP
MLIST
```

3 COPY CMD.CLIST(:=) CB : 同一メンバを別のデータセットに作成する

↓

COPY CMDPROC.CLIST(APL) CMD.CLIST(APL) CB

(II) 通常のコマンド名の前に "-" (マイナス) がついた形式

"-"を除いたTSSコマンドとして実行する。その際、(I)の形式変換は行われない。

従って、ALLOCATEコマンドのようにデータセット名がキーワードオペランドとなっている場合には、以下のように指定することができる。

例)

```
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1  EXAMPAAB CCTL PS      8  EXAMPHHH PLI PS      15  EXAMPOOO CCTL PS
2  EXAMPBBB DATA PS     9  EXAMPJII PLI PS      16  EXAMPOOO FORT PS
3  EXAMPCCC CCTL PS     10  EXAMPJJJ LOAD PO      17  EXAMPOOO LOAD PO
4  EXAMPDDD DATA PS    11  EXAMPKKK PLI PS      18  EXAMPOOO PLI PS
5  EXAMPEEE FORT PS     12  EXAMPLLL FORT PS     19  EXAMPXXX FORT PS
6  EXAMPFFF CCTL PS     13  EXAMPMMM DATA PO      20  EXAMPXXX LOAD PO
7  EXAMPFFF FORT PS     14  EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST
```

4 -ALLOC F(FT01F001) DA(=) SHR CB

↓

ALLOC F(FT01F001) DA(EXAMPDDD.DATA) SHR CB

ここで、オペランドの"=" (イコール) はメニュー項目を示すために使用される((I)と同じ)。

3.3 BTF用サブコマンド入力

BTF用サブコマンドは、原則として、単独入力形式と項目指定入力形式のどちらで入力する場合でも、その働きは同じである。ただし、次のものは項目指定入力形式で制御対象を限定することができる。

ACCESS, TYPE, NOTYPE, RENEW

例) .RENEW :メニュー全体の情報再設定

5┐.RENEW :メニュー項目番号5の情報再設定

3.4 入力コマンドにおける制約

BTFの中では、TESTコマンドを除くすべてのコマンドを実行できるが、LIBRARYコマンドの有効範囲は本システム内だけに限られ、メニュー表示の終了(READY状態)と同時に無効となる。一方、READY状態で入力したLIBRARYコマンドは、再度READY状態に変更するまで有効である。

また、アテンション出口を定義したコマンドプロシジャの実行中に、アテンションキー(BREAKキー)を押下すると、BTFは直ちに終了し、READY状態となる。ただし、この終了は、TSSの動作環境を破壊している場合があるので、十分注意されたい。

3.5 コマンド実行終了後の表示

実行したコマンドがRENAMEコマンドであり、それが項目指定入力形式で入力されたものであれば、コマンド実行結果に従って、メニュー項目は新しい名前に変更される。また、DELETEコマンドの場合には、その項目番号が削除される。

3.6 コマンドの一時中断と再開

実行を開始したコマンドがEDITコマンドのようにサブコマンドをもつものやSASコマンドのようにTSSコマンド実行機能をもつアプリケーションの場合には、その実行を一時中断して、元のメニューを表示することができる。コマンド中断状態では、別のコマンドを実行することができ、また実行中断コマンドを再開することができる。以下に、これらの使用例を示す。

例)

EDIT		EDITモードメッセージ
<u>X QUIT</u> <u>CB</u>		EDITコマンドの中断
FLIST		FLISTモードメッセージ
<u>PE CMD ID(FO091) AC(UPDATE)</u> <u>CB</u>		PERMITコマンドの実行
FLIST		FLISTモードメッセージ
<u>.WAKEUP</u> <u>CB</u>		EDITコマンドの再開
EDIT		EDITモードメッセージ

4. メニュー情報の訂正

BTFのもとでのTSSコマンド実行において、コマンド実行結果が必ずしもメニュー表示に反映しているとは限らない。例えば、単独入力形式でのDELETEコマンド入力、コマンド実行時のプロンプティングによるパラメータ入力、データセットスペースの拡大などによって簡単に情報の中味は変更される。従って、これらのメニューに表示されている情報は、BTFのサブコマンドによって訂正できるようになっている。

4.1 表示情報の再設定

表示情報を再設定するには、メニュー全体に対する方法と、メニュー項目個々に対する方法とがある。使用するサブコマンドは、いずれも同じRENEWサブコマンドで、単独入力形式で入力すれば全体が再設定され、項目指定入力形式で入力すれば、そのメニュー項目に関する情報のみが再設定される。なお、実際に存在しない項目はこのとき削除される。

例) 10 .RENEW ☒ :メニュー項目番号10の再設定表示

4.2 項目追加

メニュー項目(メンバ名またはデータセット名)は、APPENDサブコマンドによって、新たに追加することができる。ただし、このときには、項目名が追加されるだけで、そのほかの情報は、RENEWサブコマンドによって設定しなければならない。

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD  PO
 4 EXAMPDDD DATA PS     11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS      12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT  PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS      13 EXAMPMMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD  PO
 7 EXAMPFFF FORT PS      14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST
.APPEND EXAMPIJ.FORT ☒
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPNNN BASIC PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO CNTL PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPIJ  FORT  ++      17 EXAMPOOO FORT  PS
 4 EXAMPDDD DATA PS     11 EXAMPJJJ LOAD  PO      18 EXAMPOOO LOAD  PO
 5 EXAMPEEE FORT PS      12 EXAMPKKK PLI   PS      19 EXAMPOOO PLI   PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS      13 EXAMPLLL FORT  PS      20 EXAMPXXX FORT  PS
 7 EXAMPFFF FORT PS      14 EXAMPMMM DATA PO      -- CONTINUE --
FLIST

```

図3. データセットメニューにおける項目追加の例

なお、追加する項目が実際に存在すれば、同じ目的で、単独入力形式のRENEWサブコマンドを入力する方法もあるが、メニュー項目数が多いとその処理に時間がかかる。

5. メニュー表示形式

5.1 表示情報の変更

メニューの表示形式として、図1および図2に示した形式のほかに、データセットメニューではレコード長などの付属情報を表示するようにした形式(図4)、メンバメニューでは別名との対応関係を表示する形式(図5)がある。これらの詳細情報の表示には、WHOLE サブコマンドを用いる。なお、初期の表示形式に戻すにはNAME サブコマンドを用いる。

```
.WHOLE 0
---- FLIST MENU ---- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPA AA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
 2 EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
 3 EXAMPCCC CNTL PS F 80 400 1 13 ** 790327 PUB002
 4 EXAMPDDD DATA PS F 80 3120 2 39 ** 800317 PUB007
 5 EXAMPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
 6 EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
 7 EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
 8 EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
 9 EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
10 EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
11 EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
12 EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
13 EXAMPMM DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
14 EXAMPNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
15 EXAMPOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
16 EXAMPOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
17 EXAMPOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
18 EXAMPOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
19 EXAMPXXX FORT PS F 80 400 1 47 ** 840120 PUB111
20 EXAMPXXX LOAD PO U - 6144 1 94 ** 840120 PUB112
FLIST
```

表示の意味は左から以下のとおりである。

項目番号

ユーザ指定名(最大20文字まで表示)

内容識別修飾子

DSORG (データセット編成)

RECFM (レコード形式)

LRECL (レコード長)

BLKSIZE (ブロック長)

EXTENT (エクステント数)

確保量 (キロバイトまたはトラック単位)

実際使用量 (百分率, 100%は"***"で表示される)

作成日

ボリューム通し番号

図4. データセットメニューの付属情報の表示例

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC - ALLOCATE
2  *ALLOCATE - ALLOC
3  APL -
4  APLA -
5  ATNAPLA -
6  ATNEASP -
7  ATNFCMP -
8  ATNSGY -
9  ATNSPL -
10 AXEL 84/11/20 09:44 29
11 DEF -
12 *DSC - DSCAN
13 DSCAN - DSC
14 *DSL - DSLIST
15 DSLIST - DSL
16 *DST - DSTSTATUS
17 DSTSTATUS - DST
18 EASYSPSS -
19 ENDQ -
20 FCMP 85/09/20 17:19 60
```

図5. メンバメニューの付属情報の表示例

注：区分データセットがソース形式で、PFDまたはEDITコマンドで作成したメンバであれば作成時刻とレコード数も表示される。

5.2 ソーティング

データセットメニューの場合には、そのメニュー項目（データセット）に付随する属性情報（作成日など）に対して、メンバメニューの場合には作成時刻およびレコード数（PFDまたはEDITコマンドで作成したメンバに限る）に対して、両方向のソーティングができる。ソートは、" . S " の次にソートの対象を示す文字を続けて指定する。方向を指示する場合には、さらに " A "（昇順）または " D "（降順）を指定する。

データセットメニューにおける付属情報とソートの対象を示す文字、および方向の省略値は次のとおりである。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・データセット名 (NAME) | → N : 昇順 (アルファベット順) |
| ・内容識別修飾子 (TYPE) | → T : 昇順 (アルファベット順) |
| ・データセット編成 (DSORG) | → O : 昇順 (アルファベット順) |
| ・レコード形式 (RECFM) | → R : 昇順 (アルファベット順) |
| ・レコード長 (LRECL) | → L : 昇順 |
| ・ブロック長 (BLKSIZE) | → B : 昇順 |
| ・エクステント数 (EXTENT) | → E : 降順 |
| ・確保量 | → S : 降順 |
| ・使用量 | → U : 昇順 |
| ・作成日 | → D : 降順 (新しい順) |
| ・ボリューム通し番号 | → V : 昇順 (アルファベット順) |

例) .SS : 確保量の降順にソートする

.SSA : 確保量の昇順にソートする

また、メンバメニューにおける付属情報とソートの対象を示す文字、および方向の省略値は次のとおりである。

・メンバ名 → N: 昇順 (アルファベット順)

・作成時刻 → D: 降順 (新しい順)

・レコード数 → S: 降順

例) .SD : 作成時刻の新しい順にソートする

.SDA : 作成時刻の古い順にソートする

5.3 メニュー項目名による選択表示

特定のメニュー項目をその名前の特徴によって選択し、該当するものだけを表示 (抽出メニュー) することができる。抽出メニューの中から、さらに選択指示を行うと、それらは追加抽出となる。抽出状態は先頭タイトルの "SELECT" 表示によって識別できる。

抽出メニュー状態はすべての項目選択指示 ("*") によって解除される。

例) .SEL A* : Aで始まるものの抽出

.SEL *A : Aで終わるものの抽出

.SEL ^A* : Aで始まるものの以外の抽出

.SEL * : 抽出表示の解除

内容識別修飾子が "CNTL" または "FORT" のデータセットを表示する例を以下に示す。

```
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI PS      16 EXAMPOOO FORT PS
3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI PS      18 EXAMPOOO PLI PS
5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT PS      19 EXAMPXXX FORT PS
6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
```

FLIST

.SEL *.CNTL Ⓢ

```
-- SELECT MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 4
1 EXAMPAAA CNTL PS
2 EXAMPCCC CNTL PS
3 EXAMPFFF CNTL PS
4 EXAMPOOO CNTL PS
-- END --
```

FLIST

.SEL *.FORT Ⓢ

```
-- SELECT MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 8
1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPXXX FORT PS
2 EXAMPCCC CNTL PS      -- END --
3 EXAMPEEE FORT PS
4 EXAMPFFF CNTL PS
5 EXAMPLLL FORT PS
6 EXAMPOOO CNTL PS
7 EXAMPOOO FORT PS
```

FLIST

5.4 メニュー項目の表示抑止

表示されているメニュー項目は，".X" (EXCLUDEサブコマンド) によって表示を抑止することができる。

例) メニュー項目番号15から4つの項目を表示しないようにするには次のように指定する。

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMP000 CNTL PS
2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMP000 FORT PS
3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMP000 LOAD PO
4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMP000 PLI   PS
5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST
15 .X 4 C
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 47
1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPXXX FORT PS
2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPXXX LOAD PO
3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPYYY LOAD PO
4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPYYY PLI   PS
5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPZZZ FORT PS
6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO      20 EXAMPZZZ LOAD PO
7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST

```

なお，表示抑止したメニュー項目はRECOVERサブコマンドまたはRENEWサブコマンドによって再表示される。

6. 複数メニューの生成

1つのメニューから別のメニューを生成 (例えば, FLISTメニューからMLISTメニューを表示) した場合, それらの生成したメニューは有機的に結合され, 後から表示したメニューを終了しなくても, SWAPサブコマンドのメニュー切り替えによって, 前のメニューを使用することができる.

例)

```
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1  EXAMPAAA CNTL PS      8  EXAMPHHH PLI   PS      15  EXAMPOOO CNTL PS
2  EXAMPBBB DATA PS     9  EXAMPIII PLI   PS      16  EXAMPOOO FORT PS
3  EXAMPCCC CNTL PS     10  EXAMPJJJ LOAD  PO      17  EXAMPOOO LOAD PO
4  EXAMPDDD DATA PS    11  EXAMPKKK PLI   PS      18  EXAMPOOO PLI   PS
5  EXAMPEEE FORT PS     12  EXAMPLLL FORT  PS      19  EXAMPXXX FORT PS
6  EXAMPFFF CNTL PS     13  EXAMPMMM DATA PO      20  EXAMPXXX LOAD PO
7  EXAMPFFF FORT PS     14  EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
```

FLIST

MLIST CMDPROC @

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6180),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC      5  ATNAPLA      9  ATNSPL      13  DSCAN      17  DSTATUS
2  *ALLOCATE  6  ATNEASP     10  AXEL        14  *DSL        18  EASYSPSS
3  APL        7  ATNFCMP     11  DEF          15  DSLIST      19  ENDQ
4  APLA       8  ATNSGY      12  *DSC        16  *DST        20  FCMP
```

MLIST

.SWAP @

```
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1  EXAMPAAA CNTL PS      8  EXAMPHHH PLI   PS      15  EXAMPOOO CNTL PS
2  EXAMPBBB DATA PS     9  EXAMPIII PLI   PS      16  EXAMPOOO FORT PS
3  EXAMPCCC CNTL PS     10  EXAMPJJJ LOAD  PO      17  EXAMPOOO LOAD PO
4  EXAMPDDD DATA PS    11  EXAMPKKK PLI   PS      18  EXAMPOOO PLI   PS
5  EXAMPEEE FORT PS     12  EXAMPLLL FORT  PS      19  EXAMPXXX FORT PS
6  EXAMPFFF CNTL PS     13  EXAMPMMM DATA PO      20  EXAMPXXX LOAD PO
7  EXAMPFFF FORT PS     14  EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
```

FLIST

.SWAP @

```
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6180),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC      5  ATNAPLA      9  ATNSPL      13  DSCAN      17  DSTATUS
2  *ALLOCATE  6  ATNEASP     10  AXEL        14  *DSL        18  EASYSPSS
3  APL        7  ATNFCMP     11  DEF          15  DSLIST      19  ENDQ
4  APLA       8  ATNSGY      12  *DSC        16  *DST        20  FCMP
```

MLIST

なお, 生成できるメニューの数は9までである.

7. 内容識別修飾子の取り扱い変更

B T Fでは、メニューの初期表示（生成）時において、データセット名が3つ以上の修飾子から構成される場合、最後の修飾子が自動的に内容識別修飾子として取り扱われる。そこで、これらの修飾子がT S Sコマンド規約に適合しないとき、コマンド実行時に不都合が生じる場合がある。例えば、"ユーザ名.ABC.SOURCE"というデータセットは、最後の修飾子がE D I Tコマンドで扱えるデータセットタイプ名ではないため、そのままでは編集できない。このようなときには、内容識別修飾子がないものとして動作するように指示する必要がある。

7.1 データセットメニューでの変更

データセットメニューでは、個々のメニュー項目に対して内容識別修飾子の取扱いを変更する方法と、メニュー全体に対して変更する方法とがある。いずれの場合も、入力するサブコマンドは同じで、入力する形式が単独入力形式か項目指定入力形式かによってその対象が異なるだけである。内容識別修飾子を無効にするには、N O T Y P Eサブコマンドを使用する。逆に、有効にする（元に戻す）には、T Y P Eサブコマンドを使用する。

内容識別修飾子を無効にすると、メニュー項目のデータセット名表示が連続して表示される。

例)

```
10 .NOTYPE @
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1  EXAMPAAA CNTL PS      8  EXAMPHHH PLI  PS      15  EXAMPNNN BASIC PS
2  EXAMPBBB DATA PS     9  EXAMPIII PLI  PS      16  EXAMPOOO CNTL PS
3  EXAMPCCC CNTL PS     10  EXAMPIJ.FORT ++      17  EXAMPOOO FORT PS
4  EXAMPDDD DATA PS    11  EXAMPJJJ LOAD PO      18  EXAMPOOO LOAD PO
5  EXAMPEEE FORT PS     12  EXAMPKKK PLI  PS      19  EXAMPOOO PLI  PS
6  EXAMPFFF CNTL PS     13  EXAMPLLL FORT PS     20  EXAMPXXX FORT PS
7  EXAMPFFF FORT PS     14  EXAMPMMM DATA PO      -- CONTINUE --
FLIST
```

7.2 メンバメニューでの変更

メンバメニューでは、コマンド制御の対象となるデータセットが1つであることから、メニュー全体に対してのみ、内容識別修飾子の取り扱い変更を行うことができる。従って、N O T Y P EサブコマンドおよびT Y P Eサブコマンドは、単独入力形式と項目指定入力形式のいずれで入力してもその効果は同じである。

内容識別修飾子を無効にした場合、先頭のメニュー項目表示で(T O Pサブコマンド入力時)、2行目の先頭3文字が" T Y P "から" N T Y "に変更される。

例)

```
.NOTYPE @
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
NTY-REC(F),LR(***80),BLK(*8160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
1  ALLOC      5  ATNAPLA      9  ATNSPL      13  DSCAN      17  DSTATUS
2  *ALLOCATE  6  ATNEASP     10  AXEL       14  *DSL      18  EASYSPSS
3  APL       7  ATNFCMP     11  DEF        15  DSLIST    19  ENDQ
4  APLA      8  ATNSGY      12  *DSC       16  *DST      20  FCMP
MLIST
```

第3部 指令言語

BTFに関するコマンドには、本システムを開始するためのコマンドとその中で使用するサブコマンド、および通常のTSSコマンドがある。BTF用サブコマンドは、TSSコマンドと異なる形式をしており、"." (ピリオド)、"/" (スラッシュ)、または"=" (イコール) で始まる。

TSSコマンドは、フルスクリーン型端末の場合、画面最上段の入力フィールド (単独入力フィールド) またはメニュー項目右横の入力フィールド (項目指定入力フィールド) に入力する。TTY型端末の場合には、通常のREADY状態における入力形式 (単独入力形式) の他に、先頭にメニュー番号を付けた入力形式 (項目指定入力形式) がある。ここで、単独入力フィールド (単独入力形式) のTSSコマンドは、入力形式のとおりに実行し、項目指定入力フィールド (項目指定入力形式) のTSSコマンドは、メニュー項目のデータセット名またはメンバ名を第1オペランドとして付加した後、実行する。

これに対して、BTF用サブコマンドでは、単独入力フィールド (単独入力形式) で入力するとメニュー全体が、項目指定入力フィールド (項目指定入力形式) で入力すると指定した項目だけが操作対象となる。

なお、フルスクリーン型端末の場合、サブコマンドデリミタ ("|" (縦棒)) で区切ることで、1行に複数のコマンドを入力することができる。

1. メニュー開始用コマンド

1.1 FLIST

機能： データセットメニュー画面を表示する。 表示するメニューを名前や属性によって選択することもできる。

形式：

コマンド名	オペランド
FLIST FL	選択修飾子 ALL PO PS [KB TRACK [VOL (選択子)] [DSN (n)] [OPTION ('サブコマンドの並び')] FILE

オペランドの説明

選択修飾子： ユーザ指定名と内容識別修飾子の特徴を". " (ピリオド) をはさんで指定する。 任意の文字列として"* " (アスタリスク) を使用できる。 先頭に記号("¬") を付けて否定表現にすることもできる。 省略時は"* " となる。

例) FL ¬*, FORT*

ALL/PO/PS： データセット編成による選択を指定する。 POは区分データセットを示し、PSは順データセットを示す。

KB/TRACK： メニュー画面のデータセットスペース量の単位を指定する。 KBはキロバイトを示し、TRACKはトラックを示す。

VOL (選択子)： 存在するボリュームを選択して表示する場合に、その名前の特徴を指定する。 任意の文字列(空を含む)として"* " (アスタリスク) を使用できる。 また、選択子の先頭に記号("¬") を付けて否定表現にすることもできる。 省略時は、VOL (*) となり、すべてのボリュームが表示される。

例) FL * VOL(PUB*)

DSN (n)： ユーザ識別修飾子を除くデータセット名の長さの最大値を指定する。 ここで指定した長さ以上の名前のデータセットは表示されない。 省略時は n = 17 (SETサブコマンドで変更可能) である。

OPTION ('サブコマンドの並び')： メニュー画面表示後に、自動的に実行させたいサブコマンドを(複数実行する時はサブコマンドデリミタと共に)指定する。 引用符は省略できない。

例) FL * O (' . ST | / * . FORT ')

データセットタイプでソートし、内容識別修飾子が " F O R T " のものを初期画面とする。

FILE: FILEサブコマンドでデータセット (FLIST. FILE) に保存しておいたメニュー画面を再現する。このパラメータを指定した場合には他のパラメータは指定できない。

注意: 当コマンドは、原則として、サブコマンドモード (例えばEDITモード) でのXコマンドによる呼び出しでは使用できない^{*}。ただし、そのコマンドがBTF配下で呼び出されたものであれば、実行中コマンドを中断状態 (「4. コマンド実行制御用サブコマンド」参照) にして、メニューを表示する。

入力例)

i) FLIST A* 

ユーザ指定名が " A " で始まるものを表示する。

ii) FLIST *.FORT* 

内容識別修飾子が " F O R T " で始まるものを表示する。

iii) FLIST ~*.* 

内容識別修飾子がないものを表示する。

iv) FLIST * PO 

区分データセットを表示する。

v) FLIST A* PO 

区分データセットでユーザ指定名が " A " で始まるものを表示する。

vi) FLIST * TR V (~MIGRAT) 

マイグレーションされていないデータセットを表示する。このときのスペース量はトラック単位で表す。

vii) FLIST * V(PUB*) O (' . ACC ') 

共用ボリューム上にあるデータセットを更新日の新しい順に表示する。

viii) FLIST * DS (40) 

データセット名 (ユーザ識別修飾子を除く) が40文字以内のものだけを表示する。

ix) FLIST FILE 

データセットに保存されているメニューを再表示する。

^{*}PFDやSAS等のTSSコマンド実行機能を持つアプリケーションからの呼び出しも原則として行えない。

1.2 MLIST

機能： 1つの区分データセットのメンバメニュー画面を表示する。

形式：

コマンド名	オペランド
MLIST ML	区分データセット名 [SELECT(選択子)] [OPTION('サブコマンドの並び')]

オペランドの説明

区分データセット名： 1つの区分データセットの名前を指定する。

SELECT(選択子)： メンバを選択して表示する場合に、その名前の特徴を指定する。任意の文字列(空を含む)として"*"(アスタリスク)を使用できる。また、選択子の先頭に記号("¬")を付けて否定表現にすることもできる。省略時は、SELECT(*)となり、すべてのメンバが表示される。

例) ML 'SYS1.PROCLIB' SEL(*FORT*)
ML CMDPROC SEL(¬A*B)

OPTION('サブコマンドの並び')： メニュー画面表示後に、自動的に実行させたいサブコマンドをサブコマンドデリミタと共に指定する。引用符は省略できない。

例) ML CMDPROC O('/S')

注意： 当コマンドは、原則として、サブコマンドモード(例えばEDITモード)でのXコマンドによる呼び出しでは使用できない*。ただし、そのコマンドが本支援システム配下で呼び出されたものであれば、実行中コマンドを中断状態(「4. コマンド実行制御用サブコマンド」参照)にして、メニューを表示する。

*PFDやSAS等のTSSコマンド実行機能を持つアプリケーションからの呼び出しも原則として行えない。

1.3 QUIT

機能： BTF配下でTSSコマンドを開始した場合に，その実行を一時的に中断して，メニュー画面を再表示する． コマンド中断状態では，別のコマンドを実行することもできる．

なお，実行中断コマンドを再開するにはWAKEUPサブコマンドを使用する．

形式：

コマンド名	オペランド
QUIT	

注意： フルスクリーン型端末の場合には，CANCELサブコマンドによって中断コマンドをキャンセルすることもできる． また，コマンド中断は5つのコマンドまで行うことができ，複数ある場合の再開およびキャンセルは，WAKEUP/CANCELサブコマンド入力時の選択メニューで，“W”（再開）または“C”（取消）を指示する．

例)

EDIT モードメッセージ
X QUIT EDITコマンドの中断とメニュー画面への復帰

BTFによる項目サーチ，

コマンド実行 PERMITコマンドやLDコマンドのようなXコマンドで直接実行できない特殊コマンド*もBTFの下では実行できる

.WAKE EDITコマンドの再開
 EDIT モードメッセージ

* 特殊コマンドには，LIBRARYコマンド，およびRACF関連のコマンド（RACF使用手引書参照）等があるが，LIBRARYコマンドは中断状態でのBTFでも実行できない．

1.4 RETURN（フルスクリーン型端末のみ）

機能： EXITサブコマンドによりメニュー画面から一時的にREADYモードに抜け出した場合、それからメニュー画面へ復帰する。

形式：

コマンド名	オペランド
RETURN	

注意： 当コマンドは、サブコマンドモード（例えばEDITモード）でのXコマンドによる呼び出しでは使用できない。 また、EXITサブコマンドを入力したセッションと異なるセッション（再ログオンなど）で使用することもできない。

例)

.EXIT 

READY

通常のコマンド入力

READY

RETURN 

```
===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF
EXAMPAAA CNTL PS F
EXAMPBBB DATA PS F
EXAMPCCC CNTL PS F
EXAMPDDD DATA PS F
EXAMPEEE FORT PS F
EXAMPFFF CNTL PS F
EXAMPFFF FORT PS F
EXAMPHHH PLI PS V
EXAMPIII PLI PS F
EXAMPJJJ LOAD PO U
EXAMPKKK PLI PS F
EXAMPLLL FORT PS F
EXAMPHHH DATA PO F
EXAMPNNH BASIC PS F
EXAMP000 CNTL PS F
EXAMP000 FORT PS F
EXAMP000 LOAD PO U
EXAMP000 PLI PS F
** END **
DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

2. システム制御用サブコマンド

2.1 / (スラッシュ)

機能： メニューをスクロール（移動）する。 4種類の指定方法がある。

形式：

(1)	サブコマンド	オ ベ ラ ン ド
	/+n	
	/-n	

n： 表示先頭のメニュー項目からの相対番号。

(2)	サブコマンド	オ ベ ラ ン ド
	/検索子	

検索子： メニュー項目の検索文字列。任意の文字列を示す"＊"や否定記号"¬"を指定することができる。

例) /T : "T"で始まる項目への画面移動。"/T＊"と同じ。
 /¬＊ABC＊ : "ABC"を含まない項目への画面移動。

(3)	サブコマンド	オ ベ ラ ン ド
	/n	

n： 先頭に表示するメニュー項目の絶対番号。

例) /1 : 最初のメニュー項目からの表示。"/TOP"と同じ。
 /100 : 100番目の項目への画面移動。

(4)	サブコマンド	オ ベ ラ ン ド
	/	

指定したメニュー項目が先頭に表示される。

フルスクリーン型端末では、移動するメニュー項目横（項目指定入力フィールド）に入力する。

TTY型端末では、項目指定入力形式で次のように入力する。

例) メニュー番号 /

2.2 ACCESS

機能： データセットメニューで、日付フィールドに最新の参照日または更新日を表示する。
形式：

サブコマンド	オペランド
.ACCESS .ACC	$\left[\begin{array}{c} \underline{U} \\ R \end{array} \right]$

オペランドの説明

U/R：参照日か更新日かを指定する。 " U "は更新日を示し，" R "は参照日を示す。

- 注意：（１）本サブコマンドは、単独入力フィールド（TTY端末では単独入力形式）で入力した場合にはメニュー全体が表示対象になり、項目指定入力フィールド（TTY端末では項目指定入力形式）で入力した場合にはその項目だけが表示対象になる。
- （２）メニュー全体に対する実行後は、日付の新しい順にソートされて表示される。

例) .ACC 

```
==>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % UPDATE VOLUME
EXAHPHNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 850502 PUB007
EXAHPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 840316 PUB007
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 830825 PUB017
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 830401 PUB006
EXAHPDDD DATA PS F 30 1200 2 39 ** 820317 PUB007
EXAHPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 820314 PUB008
EXAHP000 CHTL PS F 80 3120 1 13 ** 810825 PUB005
EXAHPAAA CHTL PS F 80 3120 1 13 ** 810408 PUB011
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 810213 PUB014
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 801220 PUB013
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPFFF CHTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPCCC CHTL PS F 80 3120 1 13 ** 800327 PUB002
EXAHPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 800323 PUB004
EXAHPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
== END ==

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

2.3 ALIAS

機能： メンバメニュー表示において、別名メンバのみを選択表示する。 単独入力フィールド (単独入力形式) のRENEWサブコマンドによって元に戻る。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.ALIAS	
.AL	

注意： (1) 本サブコマンドは、単独入力フィールド (TTY端末では単独入力形式) と項目指定入力フィールド (項目指定入力形式) のどちらの方式で入力してもその効果は同じである。

(2) 実行後は、別名に対応する本名のアルファベット順にソートされて表示される。別名の順に並べるにはソート用サブコマンド (.SN) を使用する。

例) .AL 

```

===>
-- HLIST -- V20/L01 -- F0000.CHDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 10
*ALLOCATE ==> - ALLOC
*DSC ==> - DSCAN
*DSL ==> - DSLIST
*DST ==> - DSTATUS
*HREC ==> 84/06/18 18:05 54 HRECOVER
*HRECOV ==> 84/06/18 18:05 54 HRECOVER
*HU ==> 85/03/22 20:18 1 HUMANICS
*LISTDSD ==> - LD
*REC ==> - RECORD
*REF ==> - REFER
** END **

```

```

TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

2.4 APPEND

機能： 表示中のメニューに新たな項目を追加する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.APPEND	メニュー項目名
.A	

オペランドの説明

メニュー項目： データセットメニューの場合には、追加するデータセット名を指定する。メンバメニューの場合には、メンバ名を指定する。

注意： データセットメニューの場合、追加した項目の属性（レコード長などの）情報を表示するには、RENEWサブコマンドを使用する。

例) .A EXAMPIJ.FORT

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 19
NAME  TYPE  ORG  INPUT FIELD  RF  LRECL  BLKSZ  EX  SPACE  %  CREATE  VOLUME
EXANPAAA CCTL  PS              F    80   3120   1    13  ** 800408  PUB011
EXANPBAB DATA  PS              F    80   3120   4    78  ** 800110  PUB015
EXANPCCC CCTL  PS              F    80   3120   1    13  ** 790327  PUB002
EXANPDDD DATA  PS              F    80   1200   2    39  ** 800317  PUB007
EXANPEEE FORT   PS              F    80    400   7    91  88 800213  PUB014
EXANPFFF CCTL  PS              F    80   3120   1    13  ** 800402  PUB005
EXANPFFF FORT   PS              V   255   3120   1    39  34 800401  PUB006
EXANPHHH PLI    PS              F    80    400   1    13  ** 790323  PUB004
EXANPIII PLI    PS              F    80    400   1    13  ** 790316  PUB008
EXANPIJ  FORT   ++              VTOC  READ  ERROR  CD=02
EXANPJJJ LOAD   PO              U    -   13030   1   117  ** 790316  PUB007
EXANPKKK PLI    PS              F    80    400   1   689  84 790314  PUB008
EXANPLLL FORT   PS              F    80    400   1    13  ** 791220  PUB013
EXANPMHH DATA  PS              F    80   3120   1   117  ** 781227  PUB004
EXANPMHH BASIC  PS              V   137   3120   1    13  ** 800502  PUB007
EXANPOOO CCTL  PS              F    80   3120   1    13  ** 800825  PUB005
EXANPOOO FORT   PS              F    80    400   1    26  ** 800822  PUB008
EXANPOOO LOAD   PO              U    -   13030   1   689  21 800825  PUB017
EXANPOOO PLI    PS              F    80    400   1    52  75 800823  PUB001
** END **
DISP=>PF8,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

```

2.5 BOTTOM

機能： 最後のメニュー項目を表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.BOTTOM	
.B	

例) .B 

```
==>
-- RLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(H1) -- 132/ 150
SUIKOU ==> -
SYLIST ==> -
S4J ==> -
TABLE ==> -
TCSRUN ==> -
TELL ==> -
TODA ==> -
TOMT ==> -
TPCOPY ==> -
TSSINIT ==> -
TSUNO ==> -
UNICS ==> -
XDT ==> -
XDTSAS ==> -
#XE ==> -
XEDIT ==> -
XEDITSUB ==> -
XFORM ==> -
XNEDTSUB ==> -
** END **
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

2.6 CURSOR (フルスクリーン型端末のみ)

機能： カーソルをサブコマンドによって指定の位置へ移動する。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
・CURSOR ・CUR	FSKIP[(n)] BSKIP[(n)] UP[(n)] DOWN[(n)] RIGHT[(n)] LEFT[(n)] POSITION[(m, n)]

オペランドの説明

FSKIP (n) : →キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 BSKIP (n) : ←キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 UP (n) : ↑キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 DOWN (n) : ↓キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 RIGHT (n) : →キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 LEFT (n) : ←キーをn回押すことを示す. nの省略値は1.
 POSITION (m, n) : カーソルをm行n列の位置に移すことを示す.
 (m, n)の省略値は(12, 40).

注意： 本サブコマンドは，記号変数またはPFキーの定義に組み込んで使用する（第1部10章参照）。

入力例)

- I) .CUR F(2) 
- II) .CUR B 
- III) .CUR L(10) 
- IV) .CUR POS 

2.7 DISPLAY (フルスクリーン型端末のみ)

機能： 画面切り換え(第1部 6.2)によって使用可能なメニューの種類を表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.DISPLAY	
.DISP	

例) .DISP 

```

===>
----- SCREEN USAGE INFORMATION -----
ID.      TYPE      FORMAT
CHD      COMMAND STREAM  ALL
SYN      SYNONYM DEFINITION  ALL
F1       FLIST MENU (FO090)  ≠ ALL
M1       MLIST MENU          FO090.CHDPROC.CLIST  SELECT(≠)

SWAP=>PF2, TERM=>PF3

```

2.8 EXCLUDE

機能： メニュー項目の表示を抑止する。抑止されたメニュー項目はRECOVERサブコマンドで全て再表示される

形式：

(1)	サブコマンド	オペランド
	.X	[n]

オペランドの説明

n：抑止するメニュー項目数を指定する。省略時は1。

(2)	サブコマンド	オペランド
	.XX ~ .XX	

T T Y端末では，".XX"による範囲指定はできない。

例)

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHPHHH PLI PS .XX F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHPHHH PLI PS .XX F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHPHHH BASIC PS .XX V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

```

↓

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 11
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

```

2.9 EXIT (フルスクリーン型端末のみ)

機能： メニュー画面から一時的に抜け出し、READYモードにする。元のメニュー画面に戻るにはRETURNコマンドを使用する。ただし、再ログオンした場合には復帰できない。

形式：

サブコマンド	オペランド
.EXIT	

例) .EXIT

READY

STATUS

JOB F0090A(JOB06756) IS EXECUTING

JOB F0090A(JOB06755) IS WAITING FOR OUTPUT

READY

CANCEL F0090A(J6755) P

READY

RETURN

```
====>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % UPDATE VOLUME
EXAMPNNH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 850502 PUB007
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 840316 PUB007
EXAMPDDD LOAD PO U - 13030 1 689 21 830825 PUB017
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 330401 PUB006
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 820317 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 820314 PUB008
EXAMPDDD CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 810825 PUB005
EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 810408 PUB011
EXAMPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 810213 PUB014
EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 801220 PUB013
EXAMPDDD PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
EXAMPDDD FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800327 PUB002
EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 800323 PUB004
EXAMPBBB DATA PS F 30 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3
```

2.10 FILE

機能： データセットメニュー（FLIST）画面をデータセット（FLIST.FILE）に保存する。 この保存メニュー画面は、FLISTコマンドの起動時間を短縮するためのもので、FLISTコマンドのFILEオペランドによって使用することができる。

形式：

サブコマンド	オペランド
.FILE	

注意： 本サブコマンドはFLISTメニュー画面で入力しなければならない。

例) .FILE

READY

FL FILE

```
***>
---- FLIST MENU ---- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEE FORT PS F 80 400 7 91 88 800213 PUB014
EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB008
EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPNNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMPOOO CNTL PS P 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3
```

2.11 FIND

- 機能: (1) メニュー画面において、項目名（データセット名またはメンバ名）以外の表示情報に含まれる文字列を検索し、そのメニュー項目まで画面を移動する。
- (2) コマンド履歴画面において、コマンド文のオペランドに含まれる文字列を検索し、そのコマンド文まで画面を移動する。

形式:

サブコマンド	オペランド
.FIND	/文字列/
.F	

オペランドの説明

/文字列/ : 検索する文字列の両端をそれに含まれない文字で挟んで指定する。

例) .F /PUB005/ 

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 6/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 30 34 800401 PUB006
EXAHPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAHPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAHPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAHPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAHPHHH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

2.12 NOALIAS

機能： メンバメニュー画面で本名のみを表示する。 単独入力フィールドのRENEWサブコマンドによって元に戻る。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.NOALIAS	
.NOA	

例) .NOA 図

```

===>
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(H1) -- 1/ 130
ALLOC ==> -
APL ==> -
APLA ==> -
ATHAPLA ==> -
ATNEASP ==> -
ATNFCMP ==> -
ATNSGY ==> -
ATNSPL ==> -
AXEL ==> -
DEFDB ==> -
DSCAN ==> -
DSLST ==> -
DSTATUS ==> -
EASYSPTS ==> -
ENDQ ==> -
FCMP ==> -
FDHSCNV ==> -
FDHSCNV2 ==> -
FLOPPY ==> -
FLOW77 ==> -
TYP=REC(F),LR(==80),BLK(=6160),EXT(=1),TRK(==35,==24),DIR(=30,=21),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

2.13 POP (フルスグリーン型端末のみ)

機能: PUSHサブコマンドによって待避した画面を再表示する。

形式:

サブコマンド	オペランド
.POP	

注意: 複数画面が待避されている場合は, F I F O (First In First Out) で取り出される。

例)

```

===>
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 132/ 150
SUIKOU ==>
SYLIST ==>
S4J ==>
TABLE ==>
TCSRUN ==>
TELL ==>
TODA ==> .POP
TOMT ==>
TPCOPY ==>
TSSINIT ==>
TSUNO ==>
UNICS ==>
XDT ==>
XDTSAS ==>
*XE ==>
XEDIT ==>
XEDITSUB ==>
XFORM ==>
XNEDTSUB ==>
** END **
TYP=REC(F),LR(==80),BLK(=6180),EXT(=1),TRK(==30,==16),DIR(=50,==4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

↓

```

===>
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAHAAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHBBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHCCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHDDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHFFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHFFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPJII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 680 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPHNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAHPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **
DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

2.14 PUSH (フルスクリーン型端末のみ)

機能： 表示されている画面（入力フィールドの内容は除く）を待避する。 待避画面の取り出しはPOPサブコマンドを用いる。 本機能は、一時的に画面移動をして、また元の画面を表示したい場合に用いられる。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.PUSH	
.PU	

例)

```

==> .PUSH
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA CCTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC CCTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAMPFFF CCTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPNNH BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMP000 CCTL PS P 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

2.15 RECOVER

機能: EXCLUDEサブコマンドで抑止したメニュー項目を再表示する。

形式:

サブコマンド	オペランド
.RECOVER	
.REC	

例)

```

===> .REC
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 11
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE * CREATE VOLUME
EXAHPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAHPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAHPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAHPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAHP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

```

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SVAP=>PF2,TERH=>PF3

↓

```

===>
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE * UPDATE VOLUME
EXAHPHHN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 850502 PUB007
EXAHPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 840316 PUB007
EXAHP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 830825 PUB017
EXAHPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 830401 PUB006
EXAHPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 820317 PUB007
EXAHPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 820314 PUB008
EXAHP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 810825 PUB005
EXAHPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 810408 PUB011
EXAHPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 810213 PUB014
EXAHPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 801220 PUB013
EXAHP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
EXAHP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAHPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAHPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800327 PUB002
EXAHPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 800323 PUB004
EXAHPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAHP111 PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAHPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
** END **

```

DISP=>PF6,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9, SORT=>PF4,SVAP=>PF2,TERH=>PF3

2.16 R E N E W

機能： メニュー画面に表示されているメニュー項目やその他の情報を再設定する。 単独入力フィールドでは、メニュー全体が対象となり、項目指定入力フィールドでは、そのメニュー項目に関する情報だけが対象となる。

また、メンバメニュー画面における単独入力フィールドでの入力は、別名または本名のみの表示形式をもとの状態に戻す。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
. R E N E W	
. R E	

注意： T T Y端末では、単独入力形式で入力した場合にメニュー全体が表示対象になり、項目指定入力形式で入力した場合にその項目だけが表示対象になる。

例)

```

===> .RENEW
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(W1) -- 1/ 10
*ALLOCATE ==> - ALLOC
*DSC ==> - DSCAN
*DSL ==> - DSLIST
*DST ==> - DSTATUS
*HREC ==> 84/08/18 18:05 54 HRECOVER
*HRECOV ==> 84/08/18 18:05 54 HRECOVER
*HU ==> 85/03/22 20:18 1 HUMANICS
*LISTDSD ==> - LD
*REC ==> - RECORD
*REF ==> - REFER
** END **

```

```

TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*0100),EXT(*1),TRK(***30,***10),DIR(*50,***4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

```

2.17 SAVE (フルスクリーン型端末のみ)

機能： メニュー画面を表示した時の開始コマンド (FLISTまたはMLIST) のオペランドを、次回以降のオペランド省略値として記憶する。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.SAVE	[画面識別子]
.S	

オペランドの説明

画面識別子： 画面生成の状態表示画面において指定する。これは、画面中で "ID." とタイトル表示されているものを用いる。

例)

```

===> .S H1
----- SCREEN USAGE INFORMATION -----
ID.   TYPE                FORMAT
CMD   COMMAND STREAM      ALL
SYN   SYNONYM DEFINITION  ALL
FI    FLIST MENU (FO090)   * ALL
H1    HLIST MENU           FO090.CMDPROC.CLIST  SELECT(*)

SWAP=>PF2, TERM=>PF3

```

2.18 SELECT

機能： メニュー項目をその名前の特徴によって選択し，該当するものだけを表示（抽出）する． 抽出画面の中から，選択指示を行うと，新たな抽出を現在の抽出項目に追加して表示する．

形式：

サブコマンド	オペランド
.SELECT	[選択修飾子]
.SEL	

オペランドの説明

選択修飾子： メニュー項目の選択文字列．任意の文字列を示す"＊"を含めることができる． 省略時は全てのメニュー項目を表示し，追加選択状態を解除する．

例) .SEL ＊.CNTL 

```

***>
-- SELECT MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 4
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXANPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXANPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXANPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXANP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

2.19 SHOW (フルスクリーン型端末のみ)

機能: SAVEサブコマンドによって記憶したFLISTおよびMLISTコマンドのオペランド省略値を表示する。

形式:

サブコマンド	オ ー ペ ラ ン ド
.SHOW	
.SH	

例)

.SH 

FLIST : * ALL VOL(PUB*)
MLIST :

2.20 SOS (フルスクリーン型端末のみ)

機能： サブコマンドによってキー入力操作を代行（シミュレート）する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.SOS	PF n ENTER 入力文字列

オペランドの説明

PF n： シミュレートするPFキーを指定する。 nはキーの番号で1から24までの数。 ただし、13から24までは1から12までと同一。

ENTER： "ENTER"キーをシミュレートするとき指定する。

入力文字列： カーソル位置の入力フィールドに対して、入力すべき文字列を指定する。 "PF n"と"ENTER"は入力できない。

注意： 本サブコマンドは記号変数またはPFキーの定義に組み込んで使用する（第1部10章参照）

例) .SOS ENTER | .SOS STATUS | .SOS ENTER
① ② ③

説明： ①ENTERキーを押して、カーソルを単独入力フィールドに移動する。

(ENTERキーを単独入力した場合、カーソル移動が行われる)

②"STATUS"をキーインする。

③ENTERキーを押して、STATUSコマンドを実行する。

.SOS ENTER | .SOS CMD | .SOS PF2
① ② ③

説明： ①ENTERキーを押して、カーソルを単独入力フィールドに移動する。

②"CMD"をキーインする。

③PF2キーを押して、コマンド履歴画面（第1部8章参照）を呼び出す。

2.21 TOP

機能： メニューを先頭のメニュー項目から表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.TOP	

例)

```
====>
-- WLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(W1) -- 132/ 150
SUIKOU ==>
SYLIST ==>
S4J ==>
TABLE ==>
TCSRUN ==> .TOP
TELL ==>
TODA ==>
TOMT ==>
TPCOPY ==>
TSSINIT ==>
TSUNO ==>
UNICS ==>
XDT ==>
XDTSAS ==>
*XE ==>
XEDIT ==>
XEDITSUB ==>
XFORM ==>
XNEDTSUB ==>
** END **
TYP=REC(F),LR(==80),BLK(=6160),EXT(=1),TRK(==30,==16),DIR(=50,==4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRVD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERM=>PF3
```

3. ソート用サブコマンド

3.1 サブコマンドの形式

ソート用のサブコマンドは、その名前でソートの対象および方向を示し、下記の形式をとる。

サブコマンド名	オ ベ ラ ン ド
.Sx[y]	

x : ソートの対象を示す1文字の英字

y : ソートの方向を示し, "A" (昇順 (アルファベット順)) または "D" (降順 (アルファベット逆順)) を指定する. 省略時は, xの内容によって決められる.

3.2 サブコマンドの種類

サブコマンドの種類とそのソートする対象, およびソート方向の省略値との関係を以下に示す.

Ⅰ) データセットメニューの場合

サブコマンド名	方向省略値	ソ ー ト の 対 象
.SN	A	データセット名 (NAME)
.ST	A	内容識別修飾子 (TYPE)
.SO	A	データセット編成 (ORG)
.SR	A	レコード形式 (RF)
.SL	A	レコード長 (LRECL)
.SB	A	ブロック長 (BLKSZ)
.SE	D	エクステント数 (EX)
.SS	D	確保量 (SPACE)
.SU	A	使用量 (%)
.SD	D	日付 (CREATE or REFER or UPDATE)
.SV	A	ボリューム通し番号 (VOLUME)

Ⅱ) メンバメニューの場合

サブコマンド名	方向省略値	ソ ー ト の 対 象
.SN	A	メンバ名 (NAME)
.SD	D	日付時刻 (CREATE)
.SS	D	レコード数 (SIZE)

4. コマンド実行制御用サブコマンド

4.1 CANCEL (フルスクリーン型端末のみ)

機能: BTF配下では, TSSコマンド (EDITコマンドなど) 実行中に, メニュー開始コマンド (FLIST, MLIST), またはQUITコマンドをXコマンドで呼び出すことによって, そのコマンドが一時的に中断され, 再びメニュー画面が表示される. 本サブコマンドは, これらの実行中断 (保留) コマンドをキャンセルする. 保留状態のコマンドが2つ以上存在する場合には, それらの選択画面を表示する. 選択画面では, 該当コマンドの入力フィールド (左端) に "C" を入力しなければならない.

形式:

サブコマンド	オペランド
.CANCEL	
.CAN	

注意: コマンドの中には, SASやPFDのようにキャンセルできないコマンドもある. この場合には, 必ずWAKEUPサブコマンドによって実行を再開しなければならない.

例) .CAN 

```

==>
----- PENDING COMMAND SELECTION MENU -----
C  EDIT      EXAHPPFF.CNTL
   EDIT      EXAHPPFF.FORT
   PFD

SVAP=>PF2,TERM=>PF3
    
```

4.2 NOTYPE

機能： データセット名の最終修飾子によって決まる内容識別修飾子を無効にする。データセットメニューにおいて、単独入力フィールドでは、メニュー全体が対象となり、項目指定入力フィールドでは、そのメニュー項目だけが対象となる。メンバメニューの場合には、どちらの入力フィールドにおいても、メニュー全体が対象となる。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.NOTYPE	
.NOT	

注意： 本サブコマンドは、単独入力フィールド（TTY端末では単独入力形式）で入力した場合にはメニュー全体が表示対象になり、項目指定入力フィールド（TTY端末では項目指定入力形式）で入力した場合にはその項目だけが表示対象になる。

例) .NOT ㊦

```

===>
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 19
NAME ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA.S5912.CN PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB.A5911.DA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC.CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD.DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEE.FORT PS F 80 400 7 91 88 800213 PUB014
EXAMPPFF.X5802.CN PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPPFF.FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAMPPHH.PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII.PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPIJ.FORT ** VTOC READ ERROR CD=02
EXAMPJJJ.V5710.Z5 PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK.PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL.FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPMNN.DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPNNN.BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMP000.CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMP000.FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMP000.LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMP000.PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **
DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

4.3 SET

- 機能： (1) 内容識別修飾子のないデータセットに対するEDITコマンドのデータタイプ省略値を設定する。
 (2) データセットまたはメンバを消去する際の問い合わせを制御する。
 (3) FLISTコマンドのオペランド (VOL, DSN, スペース単位) 省略値を設定する。
 (4) 設定値の表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.SET	[TYPE [(内容識別修飾子)]] [VOL (選択子)] [DSN (n)] [SPACE (KB/TRACK)] [DELETE (PROMPT/NOPRO)]

オペランドの説明

TYPE (内容識別修飾子)： 項目指定入力フィールドにおいて、内容識別修飾子のないデータセットに対してEDITコマンドを実行する際に、データタイプの省略値を設定する。 内容識別修飾子を指定しない場合には、EDITコマンドからプロンプトされる。 初期値は"DATA"が設定されている。

VOL (選択子)： FLISTコマンドのVOLパラメータ省略値を指定する。 任意の文字列 (空を含む) として"*" (アスタリスク) を使用できる。 また、選択子の先頭に記号(" ")を付けて否定表現にすることもできる。

DSN (n)： FLISTコマンドのDSNパラメータ省略値を指定する。

SPACE (KB/TRACK)： FLISTメニュー画面のデータセットスペース量の単位を指定する。

DELETE (PROMPT/NOPRO)： 項目指定入力フィールドにおいて、データセットまたはメンバを消去する際の問い合わせを制御する。 PROMPTを指定すると、DELETEコマンド実行時に確認応答が必要となる。 NOPROでは無条件に消去される。

無指定： 既に設定した値を表示する。

注意： 本サブコマンドで設定した情報は、BTF終了後も保存される。

例) .SET @

```
SET      DELETE(NOPRO)  SPACE(KBYTE)  TYPE(DATA  )
          VOL(*)         DSN(17)
```

4.4 TYPE

機能： NOTYPEサブコマンドによって無効にした内容識別修飾子を有効にする。 データセットメニューにおいて、単独入力フィールドでは、メニュー全体が対象となり、項目指定入力フィールドでは、そのメニュー項目だけが対象となる。 メンバメニュー画面の場合には、どちらの入力フィールドにおいても、メニュー全体が対象となる。

形式：

サブコマンド	オペランド
.TYPE	[内容識別修飾子]
.TY	

オペランドの説明

内容識別修飾子： メンバメニューにおいて、（データセット名の最終修飾子と異なる）固有の内容識別修飾子を（EDITコマンドに）付加する場合に指定する。

注意： TTY端末では、単独入力形式で入力した場合にメニュー全体が表示対象になり、項目指定入力形式で入力した場合にその項目だけが表示対象になる。

例)

```

===> .TY DATA
-- HLIST -- V20/L01 -- F0090.CHDPROC.CLIST ----- ID(H1) -- 132/ 150
SUIKOU ==> -
SYLIST ==> -
S4J ==> -
TABLE ==> -
TCSRUN ==> -
TELL ==> -
TODA ==> -
TOWT ==> -
TPCOPY ==> -
TSSINIT ==> -
TSUHO ==> -
UNICS ==> -
XDT ==> -
XDTAS ==> -
*XE ==> -
XEDIT ==> -
XEDITSUB ==> -
XFORM ==> -
XNEDTSUB ==> -
** END **
TYP=REC(F),LR(***80),BLK(*8180),EXT(*1),TRK(**30,**18),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
RSET=>PA2,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,DISP=>PF6,ALIS=>PF9,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

```

4.5 WAKEUP

機能： BTF配下では，TSSコマンド (EDITコマンドなど) 実行中に，メニュー開始コマンド (FLIST, MLIST)，またはQUITコマンドをXコマンドで呼び出すことによって，そのコマンドが一時的に中断され，再びメニュー画面が表示される．本サブコマンドは，これらの実行中断 (保留) コマンドを再開する．保留状態のコマンドが2つ以上存在する場合には，それらの選択画面を表示する．選択画面では，該当コマンドの入力フィールド (左端) に "W" を入力しなければならない．

形式：

サブコマンド	オペランド
.WAKEUP	
.WAKE	

注意： TTY端末では，選択画面は表示されない．

例) .WAKE 

```

==>
----- PENDING COMMAND SELECTION MENU -----
      EDIT      EXAMPFFF.CNTL
      EDIT      EXAMPFFF.FORT
V  PFD

```

SVAP=>PF2,TERN=>PF3

5. コマンド繰返し制御用サブコマンド

5.1 =(イコール)

機能： 直前に入力したTSSコマンドを繰返す。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
=	

注意： EXITサブコマンドによるREADY状態では使用できない。

例)

```

===>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEE FORT PS #FORT NOGO OBJ F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAMPFEE CNTL PS = F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS = F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPHNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

5.2 ? (疑問符)

機能: フルスクリーン型端末の場合に, =(イコール) サブコマンドで実行する内容を入力フィールドに表示する. そのまま実行する場合には, "ENTER" キーを押下する.

形式:

サブコマンド	オペランド
?	

- 注意: (1) EXITサブコマンドによるREADY状態では使用できない.
 (2) TTY端末では, コマンド終了後の2次レベルメッセージが表示される.

例)

```

====>
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/09 - ID(F1) -- 1/ 18
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
EXAMPCCC CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 790327 PUB002
EXAMPDDD DATA PS F 80 1200 2 39 ** 800317 PUB007
EXAMPEEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
EXAMPHHH PLI PS ? F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
EXAMPIII PLI PS ? F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
EXAMPLLL FORT PS ? F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
EXAMPHHH DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
EXAMPHNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
EXAMP000 CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
EXAMP000 FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
EXAMP000 LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
EXAMP000 PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,INCF=>PF9,SORT=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

6. 同義文字列定義用サブコマンド（フルスクリーン型端末のみ）

メニュー画面の入力フィールドに "SYN" をキーインし，"PF2" キーを押下すると，同義文字列の定義画面（下図）が表示される．この画面では以下の編集用サブコマンドを使用できる．

```

===>
----- SYNONYM DEFINITION TABLE ----- ID(SYN) -- 1/ 1
NAME      STRING
&PF5.6    ==> .C/*
** END **                                     ****

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,RSET=>PF9,INTR=>PF4,SWAP=>PF2,TERM=>PF3

```

6.1 CHANGE

機能： 同義文字列の定義画面において，左端の記号変数を除く文字列を変更する．

形式：

サブコマンド	オペランド
.CHANGE	[／文字列1／文字列2／ [ALL]]
.C	

オペランドの説明

／文字列1／文字列2／： 定義画面の3行目（先頭）に表示されている "文字列1" を "文字列2" で置き換える． "／"（スラッシュ）は，"文字列1" および "文字列2" に含まれない任意の文字で代用できる．

ALL： 定義画面の先頭に表示されている定義文字列以降のすべての定義に対して，該当する文字列を置き換える．

省略時： 前回指定したオペランドと同じになる．

注意： 本サブコマンドでは左端の記号変数フィールドは変更できない．画面エディタおよび CHANGE サブコマンドで定義を変更すると，画面の2行目に "ALTERED-R" が表示される．変更した定義を使用するには，INTERPRT サブコマンドによってシステムに登録しなければならない．このとき，"ALTERED-R" の表示は消え，RECOVER サブコマンド使用時の初期状態となる．

6.2 FIND

機能： 同義文字列定義画面において，定義文字列に含まれる文字列を検索し，その定義文まで画面を移動する．

形式：

サブコマンド	オペランド
.FIND	/文字列/
.F	

オペランドの説明

/文字列/ ： 検索する文字列の両端をそれに含まれない文字で挟んで指定する．

注意：本サブコマンドでは左端の記号変数フィールドは検索できない．それらの検索には"/" (スラッシュ) サブコマンドを使用する．

例)

```

==> .F /SYN/
----- SYNONYM DEFINITION TABLE ----- ID(SYN) -- 1/ 4
NAME      STRING
&PF5.6    ==> .C/
&PF2.1    ==> .SOS ENTER|.SOS SYN|.SOS PF2|.SOS PF7/
&PF1      ==> .SOS ENTER|.SOS CHD|.SOS PF2/
&PF12     ==> .SOS EDIT &1 &2|.SOS ENTER/
== END ==

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,RSET=>PF9,INTR=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3

6.3 INTERPRT

機能： 同義文字列をシステムに登録する

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.INTERPRT .INT	

注意： 同義文字列をシステムに登録すると、画面上の "ALTERED-R" 表示が消え、以後の更新および復元 (RECOVERサブコマンド) 時の初期状態となる。

例)

```
===> .INT
----- SYNONYM DEFINITION TABLE -- ALTERED -R- ID(SYN) -- 1/ 6
NAME      STRING
&PF5.6    ==> .C/*
&PF2.1    ==> .SOS ENTER|.SOS SYN|.SOS PF2|.PUSH|.SOS PF7|.POP/*
&PF1       ==> .SOS ENTER|.SOS CMD|.SOS PF2/*
&PF12      ==> .SOS EDIT &1 &2|.SOS ENTER/*
&LS        ==> .SOS LIST SYSOUT(A)|.SOS ENTER/*
&ALC       ==> -ALLOC DA(=) SHR/*
** END **

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,RSET=>PF9,INTR=>PF4,SWAP=>PF2,TERH=>PF3
```

6.4 RECOVER

機能： 同義文字列の定義画面において、定義文を変更している状態では、変更の直前または初期状態を復元する。 初期状態では、メニュー画面表示開始（本支援システム起動）時の定義に戻る。

形式：

サブコマンド	オペランド
.RECOVER	
.REC	

注意： 画面の2行目に "ALTERED-R" の表示がある時に、本サブコマンドを入力すると、変更直前の状態が復元される。 この1回復元された状態では、表示が "ALTERED" になり、続けて本サブコマンドを入力すると、初期状態（INTERPRITサブコマンドでシステムに登録している定義）が復元される。 また、初期状態（画面に "ALTERED" が表示されていない時）に RECOVERサブコマンドを入力すると、システム開始時の定義が復元される。

例)

```

===> .REC
----- SYNONYM DEFINITION TABLE -- ALTERED -R- ID(SYN) -- 1/ 6
NAME      STRING
&PF5.6    ==> C/*
&PF2.1    ==> .SOS ENTER|.SOS SYN|.SOS PF2|.PUSH|.SOS PF7|.POP/*
&PF1      ==> .SOS ENTER|.SOS CMD|.SOS PF2/*
&PF12     ==> .SOS EDIT &1 &2|.SOS ENTER/*
&LS       ==> .SOS LIST SYSOUT(A)|.SOS ENTER/*
&ALC      ==> -ALLOC DA(=) SIIR/*
** END **

```

DISP=>PF6,FRWD=>PF8,BACK=>PF7,REPF=>PF5,RSET=>PF9,INTR=>PF4,SVAP=>PF2,TERH=>PF3

7. TTY端末制御用サブコマンド

TTY端末では、前述したサブコマンドの他に、TTY特有なサブコマンドとして、以下の物がある。

7.1 DOWN

機能： 後続のメニュー項目を表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.DOWN	
.D	

注意： " / + 2 0 " と同じ。

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPIHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD  PO
 4 EXAMPDDD DATA PS     11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT  PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA  PO      20 EXAMPXXX LOAD  PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --

FLIST
.D 
 1 XAMPAAA CNTL PS      8 XAMPHHH PLI   PS      15 XAMPOOO CNTL PS
 2 XAMPBBB DATA PS     9 XAMPIII PLI   PS      16 XAMPOOO FORT PS
 3 XAMPCCC CNTL PS     10 XAMPJJJ LOAD  PO      17 XAMPOOO LOAD  PO
 4 XAMPDDD DATA PS     11 XAMPKKK PLI   PS      18 XAMPOOO PLI   PS
 5 XAMPEEE FORT PS     12 XAMPLLL FORT  PS      19 XAMPXXX FORT  PS
 6 XAMPFFF CNTL PS     13 XAMPMMM DATA  PO      20 XAMPXXX LOAD  PO
 7 XAMPFFF FORT PS     14 XAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --

FLIST

```

7.2 END

機能： メニュー画面を終了する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.END	

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI PS      15 EXAMP000 CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI PS      16 EXAMP000 FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD PO      17 EXAMP000 LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI PS      18 EXAMP000 PLI PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT PS     19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO     20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS     -- CONTINUE --
FLIST
.END Ⓢ
READY

```

7.3 LIST

機能： メニュー項目を再表示する。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.LIST	
.L	

例)

FLIST

.L 

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI  PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI  PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI  PS      18 EXAMPOOO PLI  PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST

```

7.4 NAME

機能: メニュー項目の名前のみを表示する。

形式:

サブコマンド	オペランド
.NAME	
.N	

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
 2 EXAMPBBB DATA PS F 80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
 3 EXAMPCCC CNTL PS F 80 400 1 13 ** 790327 PUB002
 4 EXAMPDDD DATA PS F 80 3120 2 39 ** 800317 PUB007
 5 EXAMPEEE FORT PS F 80 400 7 91 86 800213 PUB014
 6 EXAMPFFF CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
 7 EXAMPFFF FORT PS V 255 3120 1 39 34 800401 PUB006
 8 EXAMPHHH PLI PS F 80 400 1 13 ** 790323 PUB004
 9 EXAMPIII PLI PS F 80 400 1 13 ** 790316 PUB008
10 EXAMPJJJ LOAD PO U - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
11 EXAMPKKK PLI PS F 80 400 1 689 84 790314 PUB008
12 EXAMPLLL FORT PS F 80 400 1 13 ** 791220 PUB013
13 EXAMPMMM DATA PO F 80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
14 EXAMPNNN BASIC PS V 137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
15 EXAMPOOO CNTL PS F 80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
16 EXAMPOOO FORT PS F 80 400 1 26 ** 800822 PUB008
17 EXAMPOOO LOAD PO U - 13030 1 689 21 800825 PUB017
18 EXAMPOOO PLI PS F 80 400 1 52 75 800823 PUB001
19 EXAMPXXX FORT PS F 80 400 1 47 ** 840120 PUB111
20 EXAMPXXX LOAD PO U - 6144 1 94 ** 840120 PUB112
FLIST

```

.N 

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS 8 EXAMPHHH PLI PS 15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS 9 EXAMPIII PLI PS 16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS 10 EXAMPJJJ LOAD PO 17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS 11 EXAMPKKK PLI PS 18 EXAMPOOO PLI PS
 5 EXAMPEEE FORT PS 12 EXAMPLLL FORT PS 19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS 13 EXAMPMMM DATA PO 20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS 14 EXAMPNNN BASIC PS -- CONTINUE --
FLIST

```

7.5 SWAP

機能： 複数のメニュー画面が存在するとき、操作対象のメニュー画面を切り替える。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.SWAP	

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMH DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNH BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST
HL CHDPROC
-- MLIST -- V20/L01 -- F0090.CMDPROC.CLIST ----- ID(M1) -- 1/ 150
TYP-REC(F),LR(***80),BLK(*6160),EXT(*1),TRK(**30,**16),DIR(*50,**4),VOL(PUB029)
 1 ALLOC      5 ATNAPLA      9 ATNSPL      13 DSCAN      17 DSTATUS
 2 *ALLOCATE   6 ATNEASP     10 AXEL       14 *DSL       18 EASYSPSS
 3 APL        7 ATNFCMP     11 DEF       15 DSLIST     19 ENDQ
 4 APLA       8 ATNSGY      12 *DSC      16 *DST      20 FCMP
MLIST
.SWAP
---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI   PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMH DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNH BASIC PS      -- CONTINUE --
FLIST

```

7.6 UP

機能： 前のメニュー項目を表示する。

形式：

サブコマンド	オペランド
.UP	
.U	

注意： "／－20"と同じ。

例)

```
FLIST
.L 
1 XAMPA   CNTL PS      8 XAMPHHH  PLI   PS      15 XAMPOOO  CNTL PS
2 XAMPBBB  DATA PS     9 XAMPIII   PLI   PS      16 XAMPOOO  FORT PS
3 XAMPCCC  CNTL PS     10 XAMPJJJ  LOAD  PO      17 XAMPOOO  LOAD  PO
4 XAMPDDD  DATA PS     11 XAMPKKK  PLI   PS      18 XAMPOOO  PLI   PS
5 XAMPEEE  FORT  PS     12 XAMPLLL  FORT  PS      19 XAMPXXX  FORT  PS
6 XAMPFFF  CNTL  PS     13 XAMPMMM  DATA PO      20 XAMPXXX  LOAD  PO
7 XAMPFFF  FORT  PS     14 XAMPNNN  BASIC PS      -- CONTINUE --

FLIST
.U 
----- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
1 EXAMPA   CNTL PS      8 EXAMPHHH  PLI   PS      15 EXAMPOOO  CNTL PS
2 EXAMPBBB  DATA PS     9 EXAMPIII   PLI   PS      16 EXAMPOOO  FORT PS
3 EXAMPCCC  CNTL PS     10 EXAMPJJJ  LOAD  PO      17 EXAMPOOO  LOAD  PO
4 EXAMPDDD  DATA PS     11 EXAMPKKK  PLI   PS      18 EXAMPOOO  PLI   PS
5 EXAMPEEE  FORT  PS     12 EXAMPLLL  FORT  PS      19 EXAMPXXX  FORT  PS
6 EXAMPFFF  CNTL  PS     13 EXAMPMMM  DATA PO      20 EXAMPXXX  LOAD  PO
7 EXAMPFFF  FORT  PS     14 EXAMPNNN  BASIC PS      -- CONTINUE --

FLIST
```

7.7 WHOLE

機能： メニュー項目の名前と属性を表示する。

形式：

サブコマンド	オ ペ ラ ン ド
.WHOLE	
.W	

例)

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS      8 EXAMPHHH PLI   PS      15 EXAMPOOO CNTL PS
 2 EXAMPBBB DATA PS     9 EXAMPIII PLI   PS      16 EXAMPOOO FORT PS
 3 EXAMPCCC CNTL PS     10 EXAMPJJJ LOAD  PO      17 EXAMPOOO LOAD PO
 4 EXAMPDDD DATA PS    11 EXAMPKKK PLI   PS      18 EXAMPOOO PLI  PS
 5 EXAMPEEE FORT PS     12 EXAMPLLL FORT  PS      19 EXAMPXXX FORT PS
 6 EXAMPFFF CNTL PS     13 EXAMPMMM DATA PO      20 EXAMPXXX LOAD PO
 7 EXAMPFFF FORT PS     14 EXAMPNNN BASIC PS      -- CONTINUE --

```

FLIST

.W 

```

---- FLIST MENU --- V20/L01 -- PREFIX(F0090 ) - 85/01/01 - ID(F1) -- 1/ 51
 1 EXAMPAAA CNTL PS F      80 3120 1 13 ** 800408 PUB011
 2 EXAMPBBB DATA PS F      80 3120 4 78 ** 800110 PUB015
 3 EXAMPCCC CNTL PS F      80 400 1 13 ** 790327 PUB002
 4 EXAMPDDD DATA PS F      80 3120 2 39 ** 800317 PUB007
 5 EXAMPEEE FORT PS F      80 400 7 91 86 800213 PUB014
 6 EXAMPFFF CNTL PS F      80 3120 1 13 ** 800402 PUB005
 7 EXAMPFFF FORT PS V     255 3120 1 39 34 800401 PUB006
 8 EXAMPHHH PLI PS F      80 400 1 13 ** 790323 PUB004
 9 EXAMPIII PLI PS F      80 400 1 13 ** 790316 PUB008
10 EXAMPJJJ LOAD PO U      - 13030 1 117 ** 790316 PUB007
11 EXAMPKKK PLI PS F      80 400 1 689 84 790314 PUB008
12 EXAMPLLL FORT PS F      80 400 1 13 ** 791220 PUB013
13 EXAMPMMM DATA PO F      80 3120 1 117 ** 781227 PUB004
14 EXAMPNNN BASIC PS V     137 3120 1 13 ** 800502 PUB007
15 EXAMPOOO CNTL PS F      80 3120 1 13 ** 800825 PUB005
16 EXAMPOOO FORT PS F      80 400 1 26 ** 800822 PUB008
17 EXAMPOOO LOAD PO U      - 13030 1 689 21 800825 PUB017
18 EXAMPOOO PLI PS F      80 400 1 52 75 800823 PUB001
19 EXAMPXXX FORT PS F      80 400 1 47 ** 840120 PUB111
20 EXAMPXXX LOAD PO U      - 6144 1 94 ** 840120 PUB112

```

FLIST

8. PFキーの標準的機能 (フルスクリーン型端末のみ)

PFキーには、表示画面によって多少異なるが、標準的な設定があり、以下のようになっている。

PFキーの種類	設 定 内 容
PF1	—
PF2	画面の切り替え (変更不可)
PF3	画面の終了 (変更不可)
PF4	(I) データセットまたはメンバメニューの場合、ソーティング (II) 同義文字列定義画面の場合、INTERPRTサブコマンドの実行
PF5	項目サーチの繰返し
PF6	(I) PF5押下直後の場合、CHANGEサブコマンドの実行 (II) 上記以外の場合、複数画面生成の状態表示
PF7	" / - 20 " の実行
PF8	" / + 20 " の実行
PF9	(I) メニュー画面の場合、画面表示形式の変更 (II) 同義文字列定義画面の場合、" PENDING " 状態の解除
PF10	—
PF11	—
PF12	単独入力フィールドへのカーソル移動

上記の標準設定を変更する場合 (ただし、PF2およびPF3は変更できない)、PF9キーの内容は代替手段がないので注意されたい。

今回のTSSコマンド入力支援システム第2版からTSS/BTFの略号を付けた。本システムは、1980年にプロトタイプを開発して以来、何度となく改訂を行って現在に至っている。改訂の度に機能が増え、柔軟性が増す反面、利用法もかなり複雑になってしまった感がある。今後は、当初の開発主旨に立ち返り、より簡素なマンマシン・インターフェースを追及して行きたいと考えている。その意味も込めて、第2版のシステムから、TSS/BTF (Time Sharing System/Brief Touch Facility) と呼ぶことにした。

謝 辞

本手引書をまとめるにあたり、福岡女子大学の国宗先生には、数多くの貴重なご意見をいただきました。ここに、感謝の意を表します。

関 連 資 料

- ・富士通(株): FACOM OSIV/F4 MSP TSS端末操作手引書 78SP-1360
- ・富士通(株): FACOM OSIV/F4 MSP TSSコマンド文法書 78SP-1341
- ・富士通(株): FACOM OSIV/F4 MSP PFD使用手引書 78SP-3101
- ・アシスト(株): SAS USER'S GUIDE Basics 1982 Edition
- ・末永: TSSコマンド入力支援システムの開発について, 九大大型計算機センター広報, Vol.15 No.5, PP475-514, 1982

【付録 TSS/BTF コマンド一覧】

機能分類	コマンド	使用可能端末	使用目的
起動・停止用	FList	FS/TTY	データセットメニュー表示
	MList	FS/TTY	メンバメニュー表示
	RETURN	FS	READYモードからの復帰
	.EXIT	FS	READYモードへの移行
	.END	TTY	表示メニューの終了
	PF3キー	FS	表示メニューの終了
スクロール用	.TOP	FS/TTY	最初のメニュー画面
	.Bottom	FS/TTY	最後のメニュー画面
	.Up	TTY	上方向のスクロール
	.Down	TTY	下方向のスクロール
	PF7キー	FS	上方向のスクロール
	PF8キー	FS	下方向のスクロール
検索用	/ (スラッシュ)	FS/TTY	項目サーチ, 相対位置指定
	.Find	FS/TTY	属性情報による検索
カーソル移動用	.CURsor	FS	コマンドによるカーソル移動
	ENTERキー	FS	単独入力フィールドへの移動
	PF12キー	FS	単独入力フィールドへの移動
属性表示用	.ACCEss	FS/TTY	データセットの参照/更新日表示
	.Name	TTY	メニュー項目名だけの表示
	.REnew	FS/TTY	属性情報のリセット
	.Whole	TTY	属性の表示
	PF9キー	FS	属性の表示/非表示切り換え
ソート用	.SN [<u>A</u> /D]	FS/TTY	メニュー項目名 (FL/ML)
	.ST [<u>A</u> /D]	FS/TTY	データセットタイプ (FL)
	.SO [<u>A</u> /D]	FS/TTY	データセット編成 (FL)
	.SR [<u>A</u> /D]	FS/TTY	レコード形式 (FL)
	.SL [<u>A</u> /D]	FS/TTY	レコード長 (FL)
	.SB [<u>A</u> /D]	FS/TTY	ブロック長 (FL)
	.SE [<u>A</u> / <u>D</u>]	FS/TTY	エクステント数 (FL)
	.SS [<u>A</u> / <u>D</u>]	FS/TTY	スペース量 (FL/ML)
	.SU [<u>A</u> /D]	FS/TTY	使用量 (FL)
	.SD [<u>A</u> / <u>D</u>]	FS/TTY	日付 (FL/ML)
	.SV [<u>A</u> /D]	FS/TTY	ボリューム通し番号 (FL)
	PF4キー	FS	カーソル位置で示す情報

機能分類	コマンド	使用可能端末	使用目的
選択表示用	.ALias	FS/TTY	別名メンバの抽出
	.Append	FS/TTY	項目の追加
	.eXclude	FS/TTY	項目の表示抑止
	.NOALias	FS/TTY	本名メンバの抽出
	.RECover	FS/TTY	eXcludeの解除
	.REnew	FS/TTY	ALias/NOAの解除
	.SElect	FS/TTY	項目名による選択
再表示用	QUIT	FS/TTY	コマンド中断でのメニュー表示
	RETURN	FS	READYモードからの復帰
	.List	TTY	メニューの再表示
	.FILE	FS/TTY	データセットメニューの保存
	.POP	FS	画面の待避
	.PUsh	FS	待避画面への復帰
メニュー切替用	.DISPlay	FS	生成メニューの表示
	.SWAP	TTY	メニューの切替
	PF2キー	FS	メニューの切替
コマンド再実行用	=	FS/TTY	コマンド実行の繰返し
	?	FS	直前実行のコマンド表示
	"CMD"+PF2	FS	コマンド履歴画面の表示
コマンド制御用	QUIT	FS/TTY	実行コマンドの中断
	.CANcel	FS	中断コマンドのキャンセル
	.NOType	FS/TTY	データセットタイプの取消
	.SET	FS/TTY	デフォルト設定
	.TYpe	FS/TTY	データセットタイプの回復
	.WAKEup	FS/TTY	中断コマンドの再開
個別設定用	.Save	FS	オペランドの記憶
	.SHow	FS	記憶オペランドの表示
	"SYN"+PF2	FS	同義文字列定義画面の表示
	.Change	FS	文字列の変更
	.INTERprt	FS	同義文字列の解釈および登録
	.RECover	FS	編集データの復元
	.SOS	FS	入力文字のシミュレート
	PF4キー	FS	同義文字列の解釈および登録